

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署													
	社会教育事務		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹										
			課	社会教育課	担当	塩野 淑美										
			係	社会教育係	電話	内線2259										
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>										
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			法令による事業実施義務										
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）													
中項目	01	生涯学習														
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり										
予算科目コード		款	10	項	04	目	01	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり				
事務事業概要	目的															
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>									
	社会教育事業全般						社会教育事業の円滑かつ効率的な運営									
	実施内容						実績・成果									
	社会教育主事嘱託職員報酬等、青少年教育協力者感謝状記念品、事務用消耗品、「昭島の社会教育」冊子製本、社会教育委員会議等の通知郵送、社会教育課用軽自動車燃料・維持管理費などの支払い等、庶務的な事務を行う。						社会教育事業の適切・効率的な運営を図った。									
	コスト															
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>								
	直接事業費		千円	3,303	3,483	3,385	3,445	その他特財 ・雇用保険料 ・自動車損害共済災害 共済金								
	財源内訳	国庫支出金	千円													
		都支出金	千円													
地方債		千円														
その他特定財源		千円	88	14	12	12										
一般財源		千円	3,215	3,469	3,373	3,433										
一般職員人件費		千円	3,320	3,280	2,460	3,280										
人工数		人	0.40	0.40	0.30	0.40										
再任用職員人件費		千円	2,460	2,460	2,460	2,460										
人工数		人	0.60	0.60	0.60	0.60										
総事業費		千円	9,083	9,223	8,305	9,185										
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による															
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3					
	判断理由				社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は1番目である。				判断理由				昭島市生涯学習推進計画を推進するために、様々な社会教育事業の円滑かつ適切、効率的な運営を継続的に図るためには引き続き直営で行うことが望ましい。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3					
	判断理由				昭島市生涯学習推進計画を推進するために様々な社会教育事業を円滑かつ適切、効率的に行っている。				判断理由				再任用職員、嘱託職員、臨時職員を採用し、事務の効率化、健全化を図っている。また、事務経費の削減にも日々努力を重ねている。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組							
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		今後も昭島市生涯学習推進計画に基づき、生涯学習の推進のために行う社会教育事業が円滑に行われるよう努める。				現状維持									

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	社会教育委員事務		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	来住野 清子						
			係	社会教育係	電話	内線2253						
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>									
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		社会教育法、昭島市社会教育委員設置条例							
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）		法令による事業実施義務							
中項目	01	生涯学習		<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）								
個別計画（年度）												
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	003	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>		<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>									
	社会教育委員		社会教育委員の活動及び社会教育委員会議の円滑な運営									
	実施内容		実績・成果									
	社会教育委員会議が毎月開催（1回2時間）され、それら会議の開催通知の送付や会議後の会議録の作成、関係資料の作成・配付、情報の提供や委員報酬の支払いなどを行っている。 また、社会教育関係の研究大会への参加や東京都市町村社会教育委員連絡協議会に参加し、研修及び情報交換を行うことにより、情報収集やその活用を行っている。		毎月1回開催される社会教育委員会議では、平成24年度は「昭島市の家庭・学校・地域の現状について」をテーマに、議長を中心として各委員が調査研究をした内容に基づき、活発な意見が交わされ、9月には建議「昭島市の家庭・学校・地域の連携による新たな社会教育のあり方について」が提出された。また、社会教育関係委員の研修会を主催、合意形成や人間理解について見識を深めあった。他市の動向把握のため、関係団体が主催する研修等へも参加している。									
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	1,281	1,290	1,232	1,298					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般職員人件費		千円	1,281	1,290	1,232	1,298						
人工数		人	0.30	0.20	0.20	0.20						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	3,771	2,930	2,872	2,938						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		社会教育法第15条及び昭島市社会教育委員設置条例に基づき設置されている。				判断理由		社会教育法第15条及び昭島市社会教育委員設置条例に基づき設置されている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由		社会教育委員自身が調査研究を重ね、昭島市の社会教育行政に対し、有効な意見を述べている。平成24年度は第26期の建議として「昭島市の家庭・学校・地域の連携による新たな社会教育のあり方について」が教育長に提出された。				判断理由		月1回の会議も議長を中心にスムーズに進行し、毎回有意義な意見が交わされている。適宜研修等へも参加し、その内容について共有する等、有効かつ効率的に運営されている。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		市民一人ひとりのニーズにこたえ、市民が自らの意思で選択し、自由に学ぶことのできる環境を整備するために、今後も社会教育委員自ら行動する会議の運営を継続していくことが重要である。			現状維持						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	あすを創る運動事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	塩野 淑美						
			係	社会教育係	電話	内線2259						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	01	心ゆきかう あさしま（明るい地域社会の形成）			法令による事業実施義務						
	大項目	01	人と人をつなぐ（コミュニティとネットワークの推進）									
中項目	01	コミュニティ										
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード		款	10	項	04	目	01	細目	004	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民						市民が日常生活の中で直面するさまざまな課題や地域活動を通して、学び、課題解決への実践をする。					
	実施内容						実績・成果					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩川をきれいにする運動の実施</li> <li>街をきれいにする運動の推進</li> <li>資源を大切にしている運動の実施</li> <li>『市民憲章』並びに『青少年とともにあゆむ都市宣言』の推進</li> <li>あすを創る運動実践協力者の表彰</li> <li>あすを創る運動関係研修会への参加</li> <li>昭島市民憲章看板の破損箇所の点検</li> </ul>						<平成24年度の活動実績> ○多摩川一斉清掃 参加者2,465人 ゴミの量3,25トン ○家庭用品バザー 提供物品数 5,525点 売上金 480,605円（一部を社会福祉協議会に寄付） ○門松ステッカー 全戸配布 ○施設見学 東京たま広域資源循環組合 ニッ塚処分場 参加者数20人 ○年7回の会議の実施					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	180	170	170	160					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	180	170	170	160						
一般職員人件費		千円	1,660	1,640	1,640	1,640						
人工数		人	0,20	0,20	0,20	0,20						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	1,840	1,810	1,810	1,800						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				1	
	判断理由				社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は11番目である。				判断理由			
									自治会連合会や赤十字奉仕団、地域の協力者で構成されている昭島のあすを創る協議会に委託し、市民との連携、協働の促進が図られている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由				昭島市と共催の多摩川一斉清掃では花の種を配布し、多摩川をきれいにするとともに「花と緑にあふれるまちづくり」にも一役買っている。また、家庭用品バザーでは家庭に眠っている不用品を寄付していただき、資源の有効活用並びに福祉団体への寄付など、社会貢献を行っている。				判断理由				
								自治会連合会や赤十字奉仕団、地域の協力者と連携し、あすを創る運動の推進を図っている。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		D		現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				現在、市が事務局として関わっているが、昭島のあすを創る協議会が自立し運営していくことが望ましい。				平成23年度より削減している委託金を、引き続き削減し、自主財源での運営を目指す。			

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	社会教育関係団体指導育成事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	来住野 清子						
			係	社会教育係	電話	内線2253						
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>									
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		昭島市社会教育関係団体登録要綱、昭島市青少年教育協力者感謝状贈呈要綱、昭島市子ども会活動費補助金交付要綱、昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱							
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	01	生涯学習										
個別計画（年度）		法令による事業実施義務										
予算科目コード		款	10	項	04	目	01	細目	005	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり
						<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり						
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	社会教育関係団体等						市民の自主的な社会教育活動を促進し、市の社会教育の発展を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	社会教育関係団体等の指導者等を対象とした研修会の開催。社会教育関係団体等への補助金の交付。社会教育関係団体の登録、更新事務。						平成24年度は社会教育関係団体の指導者、子ども会のリーダー等を対象とした研修会を開催し、22名が参加した。また、子ども会についての意見交換会を開催し、47名が参加した。補助金の交付は子ども会連絡会へ3団体、単子子ども会へ50団体、社会教育関係団体等へ6団体に交付し、各団体の継続的かつ活発な活動の一助となっている。					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	2,104	1,789	1,599	1,711					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	2,104	1,789	1,599	1,711						
一般職員人件費		千円	830	820	820	820						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	2,934	2,609	2,419	2,531						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は7番目である。				判断理由		補助金の交付は民間やNPOに任せるのではなく、直営が妥当であるが、研修会、社会教育関係団体の登録業務は民間委託も不可能ではない。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由		社会教育関係団体等の指導者研修会へ出席で得られる今後の活動へのヒントや、補助金の交付により、自主財源だけでは実現できない事業を展開している。社会教育関係団体の登録制度は市民がサークル活動に参加したいとき等の参考として活用されている。				判断理由		研修会を委託することは可能であるが、年間1回から2回開催する研修会を委託することは、あまり効率的ではなく、現在の直営方式が妥当である。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		現状における課題 ○研修会に参加する指導者が少なく、費用対効果が低い。 ○社会教育関係団体の活動内容や会員の年齢層が多岐にわたることから研修会の内容がしぼりにくい。 ○補助金額を適切な金額に設定する必要がある。			補助金の削減に努める。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	生涯学習推進事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹					
			課	社会教育課	担当	来住野 清子					
			係	社会教育係	電話	内線2253					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			法令による事業実施義務					
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	01	生涯学習									
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画（22～26年度）、昭島市生涯学習推進計画（15年3月～）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	006	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	概ね50歳以上の中高年の市民					パソコンの操作に不慣れな中高年の市民の方に、日頃の生活の中で活用できるようなパソコンの操作を習得していただく。					
	実施内容					実績・成果					
	パソコンの基本的な操作（文字入力やマウス操作など）ができる50歳以上の中高年を対象に、ワードの基礎的な機能を学習し、実際に地域の活動等で役に立つ技術を習得することで、中高年の地域生活をより充実したものにしていくことを目指す。					福島会館において、パソコンインストラクターの講師を招き、3日間実施し、延べ44名の参加があった。講習の内容は「ワードの基礎と応用」でテキストに沿ってチラシの作成を行なった。また、インターネットにも触れた。講習後のアンケートは次のとおりで、概ね満足されていたようである。後日、パソコン学習の自主グループとして学習会の発足につながった。 ・内容 よくわかった 8名 大体わかった 4名 ・進め方 早かった 2名 ちょうどよかった 12名 ・講習会に期待していたことは得られたか 得られた 11名 得られなかった 0名 どちらとも言えない 2名					
	コスト										
	直接事業費		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	財源内訳	国庫支出金	千円	59	61	56	781	都支出金 ・高齢社会対策区市町村包括補助金 その他特財 ・各種講習会受講料			
		都支出金	千円	16	21	17	23				
		地方債	千円								
その他特定財源		千円	14	19	13	13					
一般財源		千円	29	21	26	745					
一般職員人件費	千円	830	820	820	1,640						
人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.20						
再任用職員人件費	千円										
人工数	人										
総事業費	千円	889	881	876	2,421						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2	②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は9番目である。				判断理由	講師はパソコンインストラクター（マイクロソフト・オフィシャルトレーナー資格認定講師）の資格を持つ外部講師が指導し、受講者からは講師料の一部を受講料として徴収している。また、講師の補助としてボランティアにお手伝いいただいている。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4	④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	講習終了後の受講者のアンケート結果からも、受講者が期待していたことは概ね達成されており、満足していただいているようである。				判断理由	昨年に引き続き、講師の他にパソコンの知識に精通したボランティアに協力していただき、受講者の指導にあたっている。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E	現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組					
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○年1回の開催なので、多くの市民に参加していただくのは難しい。 ○講習会の回数を増やすと講師料が増加してしまうので難しい。			現状維持					

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署				
	生涯学習情報センター運営事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹	
			課	社会教育課	担当	来住野 清子	
			係	社会教育係	電話	内線2253	
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>				
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	昭島市生涯学習校区協議会補助金交付要綱				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）	法令による事業実施義務				
中項目	01 生涯学習						
個別計画（年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり		
予算科目コード	款	10	項	04	目	01 細目 007 細々目 01	
事務事業概要	目的						
	<対象は誰、何か>		<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>				
	市民		地域とのつながりの中で「生きがい」「友達づくり」を重視した誰もが参加できる生涯学習を推進する。				
	実施内容		実績・成果				
	小学校区に根ざした住民による生涯学習を推進するため、生涯学習校区協議会を設置し、必要な情報の提供や適切な運営の為に指導や助言を行う。		平成15年度に設置したつ北小地区・いきいき楽習協議会を始め、田中小校区生涯学習住民協議会、拝島第一小学校区地域協議会の3つの協議会がそれぞれ特色のある事業を展開している。平成24年度の参加延べ人数はつ北小地区・いきいき楽習協議会が175名、田中小校区生涯学習住民協議会が193名、拝島第一小学校区地域協議会が61名となっている。また、平成24年度は生涯学習校区協議会連絡会を開催し、それぞれの協議会の運営や事業について情報交換を行なった。				
	コスト	(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>
	直接事業費	千円	502	738	398		
	財源内訳	国庫支出金	千円				
		都支出金	千円				
		地方債	千円				
その他特定財源		千円					
一般財源		千円	502	738	398		
一般職員人件費	千円	830	820	820			
人工数	人	0.10	0.10	0.10			
再任用職員人件費	千円						
人工数	人						
総事業費	千円	1,332	1,558	1,218			
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による						
	①優先度（どの程度優先されるべきか）		3		②妥当性（実施方法は妥当であるか） 3		
	判断理由	社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は5番目である。		判断理由	地域の既存の団体と連携しながら、特色ある事業を展開し、住民同士のつながりを育てている。		
	③達成度（成果はどの程度あるか）		4		④効率性（効率的に実施できたか） 3		
	判断理由	同じ地域の中で、生活環境・年齢等により、普段の生活の中では交流することが少ない地域住民とも交流ができ、また地域の様々な団体と連携することで、新たな生涯学習活動が協議会としても個人としても広がっていくことが期待される。小学校区ごとに特色ある事業を展開し、多くの地域住民が参加している。		判断理由	地域における生涯学習推進のため、地域住民が校区協議会の一員となり、企画運営することで独自の事業を展開している。事業によっては受益者負担の観点から参加費も徴収している。		
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E	現状における課題		平成26年度予算編成における具体的な取組		
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○新たな校区協議会の設置に至っていない。 ○地域により既存の団体との関係など、事情も異なることから設置に向けての調整が難しい。		事業内容を精査した結果、平成25年度より生涯学習推進事業に含める。平成26年度以降も引き続き事業を実施するとともに更に補助金の適正化に努める。		

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	成人式開催事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	鈴木 賢治						
			係	社会教育係	電話	2253						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			昭島市成人式要綱						
	大項目	02	ともにあゆむ（青少年の育成）									
中項目	01	青少年の健全育成			法令による事業実施義務							
個別計画（年度）		<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり										
予算科目コード		款	10	項	04	目	01	細目	008	細々目	01	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	当該年度に20歳になる新成人						人生の節目として新しい門出を祝福し、成人としての自覚を促し、昭島市民であることを再確認する。					
	実施内容						実績・成果					
	成人の日にフォレスト・イン昭和館 シルバンホールにおいて、式典及び茶話会を開催している。茶話会には中学校の恩師を招待し、現在の中学校の映像を会場で上映するなど、新成人の実行委員による柔軟な運営が行われている。						平成24年度の出席者は、対象者、男性555人、女性542人に対し男性392人、女性378人、合計770人となっている。出席率は男性70.63%、女性69.74%、合計70.19%と、多摩地区では高い出席率を誇っている。					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	2,274	2,240	2,237	2,240					
	財源内訳	国庫支出金		千円								
		都支出金		千円								
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	2,274	2,240	2,237	2,240						
一般職員人件費		千円	2,490	2,460	2,460	1,640						
人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.20						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	4,764	4,700	4,697	3,880						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は6番目である。				判断理由		昭島の未来を託す新成人を祝福し、昭島市民であることを再確認し、その若い力をこれからの昭島に還元していただけるよう、新成人が一堂に会する機会をつくることは妥当である。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				5		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由		中学校卒業以降は友人同士顔を合わせることはあっても、学年全体、恩師などが一堂に会する機会は少ない。新成人として社会に羽ばたくこの時期に、子供時代を振り返り、地元の良いさを再確認し、自分を育ててくれた「あきしま」にこれから何が出来るか、考えていただくためには非常に有効であり、毎年高い出席率を誇っている。				判断理由		新成人による実行委員会形式の運営と、フォレスト・イン昭和館を利用することにより、従事する職員の削減と、高い出席率を実現している。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		新成人を対象とした成人式実行委員会委員への応募は例年少なかったが、今年度は予定数を上回る11人の応募があった。広報やホームページ、市内施設へのポスター等の掲示などは引き続き行い、多方面への声かけも行っていきたい。				現状維持					

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	土曜地域ふれあい事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹					
			課	社会教育課	担当	塩野 淑美					
			係	社会教育係	電話	内線2259					
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>								
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	昭島市生涯学習援助協力者活用要綱								
	大項目	02 ともにあゆむ（青少年の育成）	法令による事業実施義務								
中項目	01 青少年の健全育成										
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画（22～26年度）、昭島市生涯学習推進計画（15年3月～）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	01 細目 009 細々目 01					
事務事業概要	目的		<対象は誰、何か>				<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>				
	小学生、中学生、ボランティア講師		子どもたちの居場所づくりと生涯学習の推進。楽しみながら異世代間や異年齢の子ども同士の交流による人間関係の形成。								
	実施内容		実績・成果								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁教室 小・中学生を対象に登録ボランティアである講師が、囲碁についての指導を行う</li> <li>・陶芸教室 小・中学生を対象に登録ボランティアが陶芸の実技指導を行い陶芸作品を作る。</li> <li>・作陶展 市役所ロビーで、陶芸教室参加者の作品を展示</li> </ul>		囲碁教室では最近、囲碁が見直されていることや、以前に受講した子どもが引き続き受講するなどして、多くの応募があった。社会教育関係団体や地域の市民ボランティアによる講師は、子どもとのふれあいを通じていきいきとし、生きがいにもなっている。 ・囲碁教室 夏休みのをぞく6月から10月の第1.3.5土曜日 延べ参加者 小学生 282名 ボランティア講師 101名 ・陶芸教室 7月と10月のそれぞれ第2・4土曜日 延べ参加者 小学生45名 ボランティア講師 23名 ・作陶展 市役所ロビーで、指導にあたった講師の先生方の日頃からの作品と陶芸教室参加者の作品を展示								
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	69	76	59	63	国庫支出金 ・子育て支援交付金 その他特財 ・各種講習会受講料 ・市民総合賠償補償保険金			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円	26							
		地方債	千円								
		その他特定財源	千円	10	13	12	18				
一般財源	千円	33	63	47	45						
一般職員人件費		千円	1,660	1,640	1,640	1,640					
人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	1,729	1,716	1,699	1,703					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由			社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は8番目である。		判断理由			囲碁教室も陶芸教室も講師はボランティアで運営しており、地域住民の技能や技術を生かす場として、実施している。参加費も保険料程度となっている。		
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由			囲碁をすることにより集中力、創造力、豊かな発想、礼儀正しさ、勝ち負けによる喜び・悲しみ・葛藤が人格育成に必要な感情や心をコントロールする訓練となり、子どもたちを成長させた。陶芸を通して、物づくりの体験、喜びをあげることができた。子ども同士異世代間の交流、地域住民と子どもの交流が図れ、アンケートの結果も、楽しかったので又してみたいとの回答が多くあった。		判断理由			囲碁教室は、碁盤なども揃っているため、経費は資料代程度でまにあうことができた。陶芸教室は、器具については概ね整っており、色絵の具などの材料は、不足分を補うことで足りた。また、どちらも講師はボランティアでお願いしているため、謝礼はほとんどかからない状況となり、適切な運営ができた。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				ボランティア講師も高齢化しているため、新たな講師の獲得が必要。			現状維持			



平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署				
	生涯学習推進計画策定事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹	
			課	社会教育課	担当	来住野 清子	
			係	社会教育係	電話	内線2253	
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>				
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	昭島市生涯学習推進計画策定委員会要綱、昭島市生涯学習推進計画策定庁内連絡会要綱				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					
中項目	01 生涯学習	法令による事業実施義務					
個別計画（年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）		
予算科目コード	款	10	項	04	目	01 細目 012 細々目 01	
事務事業概要	目的		目的				
	<対象は誰、何か>		<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>				
	市民		生涯学習をとおして市民相互と地域のつながりを育てる。				
	実施内容		実績・成果				
	○策定委員会及び連絡会の開催 生涯学習推進計画策定委員会と生涯学習推進計画策定庁内連絡会を開催し、連携を図りながら計画内容について審議を行った。 ○パブリックコメントの実施 第2次昭島市生涯学習推進計画案についての市民意見募集 ○第2次昭島市生涯学習推進計画の印刷		○生涯学習推進計画策定委員会（委員10名 うち公募市民2名）で6回、生涯学習推進計画庁内連絡会（委員12名）で3回開催 ○パブリックコメントは平成24年12月1日から平成25年1月4日の間に3件の意見があった。 ○第2次昭島市生涯学習推進計画印刷 本編500部 概要版250部				
	コスト	(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>
	直接事業費	千円		1,588	1,153		
	財源内訳	国庫支出金	千円				
		都支出金	千円				
		地方債	千円				
その他特定財源		千円					
一般財源		千円		1,588	1,153		
一般職員人件費	千円		1,640	1,640			
人工数	人		0.20	0.20			
再任用職員人件費	千円						
人工数	人						
総事業費	千円		3,228	2,793			
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による						
	①優先度（どの程度優先されるべきか）		4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）		
	3				3		
	判断理由	社会教育課に属する任意事業のうち、当該事業の優先度は2番目である。				判断理由	市民の意見を反映した推進計画を策定するため、公募市民2名を含む昭島市生涯学習推進計画策定委員会、庁内委員からなる生涯学習推進計画策定庁内連絡会を設置し、検討を重ねた。また、計画の周知や活用のため冊子を印刷したほか、ホームページからのダウンロードも可能にした。
	③達成度（成果はどの程度あるか）		4		④効率性（効率的に実施できたか）		
4				4			
判断理由	有識者・市民により構成される委員会においては活発な意見交換が行われ、またパブリックコメントを通じて市民意見を取り入れることができた。結果として平成15年策定の生涯学習推進計画をさらに発展させ、「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」を実現させるための計画策定につなげることができた。当初の予定どおり印刷され、関係機関等へ配付された。				判断理由	平成24年度のみのものであり、委員会の開催日程を効率的に行い、効率的に実施できた。またその他の経費も必要最小限にとどまっている。	
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	D	現状における課題		平成26年度予算編成における具体的な取組		
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		計画の策定に伴い、今後はその進行管理を適切に行う必要がある。		なし		

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	文化財保護審議会事務		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	小林 光吉						
			係	文化財担当	電話	2259						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			文化財保護法、昭島市文化財保護条例、昭島市文化財保護審議会条例・会議規則						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
	中項目	05	文化財			法令による事業実施義務						
	個別計画（年度）					<input checked="" type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）						
	予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	001	細々目	01	<input type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	昭島市文化財保護審議会						昭島市における文化財の保存及び活用に関する必要事項の調査・審議を行う。					
	実施内容						実績・成果					
	昭島市教育委員会から文化財の指定・解除等の諮問及び文化財行政の運営等に関し審議、答申及び文化財行政に関する指導・助言を行う。 委員9人（条例上10人以内）、月額報酬11,000円						文化財の保護・保存及び活用に関する必要事項を調査審議するために設置された付属機関であり、教育委員会の諮問により市指定文化財24件の指定および都指定文化財10件に意見具申並びに「アキシマクシラ」化石の生存年代の変更をしたことなど実績は顕著なものとなっている。また、郷土資料室開設に伴う展示物等の選定や、レイアウト等の検討に尽力をいただいている。 平成24年度には、市指定天然記念物「郷地の大桑（昭和46年指定）」について、指定以降40年が経過し樹勢が弱まり枯死していると判断し指定を解除（平成25年1月17日）を教育委員会に答申している。					
	コスト	(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>					
	直接事業費	千円	1,188	1,213	1,195	1,208						
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	1,188	1,213	1,195	1,208						
一般職員人件費	千円	1,660	1,640	1,640	1,640							
人工数	人	0.20	0.20	0.20	0.20							
再任用職員人件費	千円											
人工数	人											
総事業費	千円	2,848	2,853	2,835	2,848							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由						判断理由					
	条例に定められている。						文化財に係る様々な分野の専門知識を持つ方々で構成され、年6回の審議会を開催。市の責務となる文化財の保護・保存及び活用を行ううえで、審議を行い指導・助言等をいただいている。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由						判断理由						
教育委員会の諮問により市指定文化財24件、都指定文化財10件に意見具申並びに「アキシマクシラ」の生存年代の変更などの実績は顕著である。 また、平成24年度は市指定天然記念物「郷地の大桑（昭和46年指定）」について、指定以降40年が経過し樹勢が弱まり枯死していると判断し指定を解除（平成25年1月17日）を教育委員会に答申している。						昭島市特別職の職員報酬及び費用弁償に関する条例に基づき委員報酬（月額報酬¥11,000）を支出している。						
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E				現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組	
							専門的知識を持つ方々で構成された審議会のため、退任等があった場合に後任を選定することが非常に難しい。				現状を維持	
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し											
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し											
	C 抜本的な見直し											
D 縮小・廃止												
E 現状を維持												

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	文化財保護事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹							
			課	社会教育課	担当	小林 光吉							
			係	文化財担当	電話	2259							
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>										
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	文化財保護法、昭島市文化財保護条例、同施行規則、昭島市文化財保護事業費補助金交付要綱										
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）	法令による事業実施義務										
中項目	05 文化財												
個別計画（年度）					<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり								
予算科目コード	款	10	項	04	目	03 細目 002 細々目 01	<input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり						
事務事業概要	目的		<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
			市民及び文化財の所有者及び管理者、保存者					文化財の保護・保存するとともに多くの方へ公開することにより文化財保護思想の高揚・普及・啓発を図る。					
	実施内容		文化財めぐりを開催し、郷土の歴史、文化に触れてもらい文化財の保護。保存の重要性について啓発するとともに、シニア世代の活力を活用し、文化財ボランティアガイドの養成を行う。また、指定文化財の保護・保存を行うための修理に係る事業補助及び後継者育成に係る補助を行う。					実績・成果 文化財めぐり 第1回 10月28日：玉川上水・柴崎分水コース 雨天中止 第2回 11月10日：東部コース 参加者25名 文化財ボランティアガイド養成講座 机上講習 3回 史跡めぐり 4地区 文化財説明看板設置 5枚					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>					
	直接事業費		千円	8,684	722	990	7,765	都支出金					
	財源内訳	国庫支出金	千円					・市町村総合交付金					
		都支出金	千円	3,995		336		・スポーツ祭東京20					
		地方債	千円					1 3気運醸成・開催					
		その他特定財源	千円	13	225	12	221	記念事業補助金					
	一般財源	千円	4,676	497	642	7,544	その他特財						
一般職員人件費	千円	2,490	2,460	2,460	2,460	・各種講習会受講料							
人工数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	・各種印刷物頒布代金							
再任用職員人件費	千円		1,640	1,640	1,230	・市民総合賠償補償							
人工数	人		0.40	0.40	0.30								
総事業費	千円	11,174	4,822	5,090	11,455								
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				4		
	判断理由		条例、要綱等で定められている。					判断理由		市指定無形民俗文化財「拜島日吉神社祭り囃子」「福島ばやし」など、市内に古くから遺るものであり後継者育成等は、市と文化財所有者、管理者及び保存者等と連携し、後世に伝えていく必要がある。また、文化財の保護・保存だけでなく、公開等の活用することで意識高揚・啓発を図ることから適切。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3		
	判断理由		文化財めぐり等の教室開催時には、参加希望者も多くニーズは高い。郷土の歴史遺産に触れることで、個人の生涯（自主）学習を始めるきっかけをつくる役割を担っている。また、養成中の文化財ボランティアガイドについても、市民が市民に対し郷土の歴史、文化財を啓発する形が生まれる。					判断理由		文化財めぐりは、中高年層の参加者が多いため、時間、距離を考慮したコース設定に変更したことにより参加者が増加してきている。また、講師を文化財保護審議会の委員の方に依頼し、開催することにより講師謝礼が抑えられている。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		B		現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し				・有形民俗文化財については、祭礼等以外に郷土芸能まつり等への公開によって劣化が進む恐れがある。 ・文化財ボランティアガイドについては、郷土資料室の小学校での社会科見学時及び夏期期間の臨時開室等での活用が期待できる。								
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し												
	C 抜本的な見直し												
	D 縮小・廃止												
E 現状を維持													

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	埋蔵文化財発掘調査		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹					
			課	社会教育課	担当	小林 光吉					
			係	文化財担当	電話	2259					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			文化財保護法、昭島市文化財保護条例、同施行規則					
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			法令による事業実施義務						
中項目	05	文化財									
個別計画（年度）					<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	003	細々目	01	<input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市内埋蔵文化財包蔵地内の開発事業等土木工事					埋蔵文化財は国民共有の貴重な歴史財産であり、文化向上・発展の基礎をなすものと位置づけ、開発行為等による文化遺産（遺跡）の破壊から埋蔵文化財を保護し、後世に伝える記録保存等を行う。					
	実施内容					実績・成果					
	開発事業者等から発掘届を受理し、都教育委員会に対し、進達する。 事業者等と発掘の日程調整等をし調査指導員の下に、確認調査を実施する。重要な遺構等が発見された場合は、事業者負担等で、本調査を実施し、報告書を作成する。 国・都の補助金事務も併つ。					高度経済成長期に入り、乱開発による埋蔵文化財の破壊が顕著になり、埋蔵文化財を保護するために実施された事業で、現在も状況は変化はない。 昭和59年度から国・都の補助金対象事業として本市でも実施している。 これまでの発掘調査の実施により林ノ上遺跡（埴島式土器出土跡：縄文時代早期）や上河原遺跡、浄土古墳、経塚下遺跡からの出土遺物等が市指定文化財になっている。 また、包蔵地以外からの場所で出土した、獣脚付有蓋短頸壺 付・石櫃他一括については全国的にも数例しかなく都指定文化財となっている。 平成24年度 確認調査 3遺跡4日間					
	コスト										
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	535	6,475	5,712	886	国庫支出金 ・埋蔵文化財発掘調査補助金 都支出金 ・埋蔵文化財発掘調査補助金 ・緊急雇用創出事業臨時特例補助金 その他特財 ・雇用保険料			
	財源内訳	国庫支出金	千円	267	500	207	400				
		都支出金	千円	133	5,654	5,349	200				
地方債		千円									
その他特定財源		千円		16							
一般財源		千円	135	305	156	286					
一般職員人件費		千円	1,660	1,640	1,640	2,460					
人工数		人	0,20	0,20	0,20	0,30					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	2,195	8,115	7,352	3,346					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3	②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由					判断理由					
	文化財保護法に定められている。					文化財保護審議会会長を埋蔵文化財発掘調査指導員に委嘱して行っている。また、発掘調査作業については、シルバー人材センターとの間で発掘調査補助作業委託を締結し、また、市内業者と発掘調査に使用する重機の借上に係る契約を締結し実施している。 国及び都の補助事業であり、事務処理は事務局（社会教育課文化財担当）で行っている。					
③達成度（成果はどの程度あるか）				3	④効率性（効率的に実施できたか）				3		
判断理由					判断理由						
都や市の指定文化財になる遺跡、発掘出土物など貴重なものが多い。開発事業で失われつつある中で、調査を行い記録を残し、その地域の歴史解明の材料となる。					発掘調査補助員として臨時職員を雇用していた経過があり、平成14年度に2名雇用から1名雇用へ削減、平成23年度には臨時職員の経費を削減した。 指導員謝礼も発掘調査（確認・試掘調査）時のみに支出しており、その他の調査方法（立会調査）には支出していない。 同じ日に立会調査が重なると、職員は専門職ではないので立会いはできず、指導員の先生1人で現場を回るようになる。						
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		A			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組		
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し		現状における課題 開発行為に対しては、発掘調査以外にも立会いという方法があるが、本市には専門職（学芸員）がないため、職員による立会いができない。専門職（学芸員）又は嘱託の専門職員の配置ができれば、こうした方法が取れるほか、年度ごとの調査報告書の刊行ができる。又、専門職（学芸員）の配置については文化財保護審議会から指摘を受けているところです。								
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し										
	C 抜本的な見直し										
	D 縮小・廃止										
E 現状を維持											

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	市史料調査		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹					
			課	社会教育課	担当	小林 光吉					
			係	文化財担当	電話	2259					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			文化財保護法、昭島市文化財保護条例、施行規則					
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			法令による事業実施義務						
中項目	05	文化財									
個別計画（年度）					<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	004	細々目	01	<input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民から寄贈された生活用具、農具などの民具					民具等の受入れにより、貴重な文化財を記録・収蔵及び保存し、公開等の活用を行う。					
	実施内容					実績・成果					
	寄贈申入れにより、訪問等による回収作業をし、品目リストを作成する。撮影、採寸等のデータを調査カードに記録し整理する。用途や時代などについて調査し、収蔵保存する。これまでは調査指導員（1名）及び調査整理補助作業員（2名）により、拝島第四小学校内の空教室を利用し調査・整理に当たっていたが、現在は調査整理補助作業員2名で調査・整理を行っている。寄贈された民具は昭和中学校木造校舎、拝島第四小学校校舎・田中小学校校舎（平成24年12月末まで）に収蔵し保管している。					民具類の収集については、寄贈の申入れがあって成立するものであり、その年によって数字は変動する。 収集点数 平成24年度末現在の収集点数 約24,000点 整理点数 平成24年度末現在の整理点数 約23,400点					
	コスト										
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	1,977	457	435	1,922	都支出金 ・緊急雇用創出事業 臨時特例補助金 その他特財 ・各種印刷物頒布代金			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円	1,570							
地方債		千円									
その他特定財源		千円				40					
一般財源	千円	407	457	435	1,882						
一般職員人件費		千円	830	820	820	820					
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
再任用職員人件費		千円		1,640	1,640	2,050					
人工数		人		0.40	0.40	0.50					
総事業費		千円	2,807	2,917	2,895	4,792					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3
	判断理由					判断理由					
	市域での人の営みによる生活用具（民具）、農具、漁具、養蚕具など過去の人々の生活風習等を考えるうえで、重要な資料である。衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの					平成20年度まで民具調査指導員がいたが、現在は調査整理補助作業員（2名）で整理作業等を行っている。受け入れを行う場合に、調査指導員が退任前に作成した基準に基づいて行うが、収蔵スペース等の問題もあり苦慮している。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3
判断理由					判断理由						
平成23年度末の収集状況が約23,600点あり、種類も多種多様なものがあるが、生活用具や農具、また、昭和初期まで盛んに行われていた養蚕に関するものも多く寄贈いただいている。					民具の受け入れが行われると、調査整理補助作業員により品目リストや調査カードの作成が行われているが、年間勤務日数は35日しかないため、寄贈された民具自体の整理に時間がかかる。また、通常作業は拝島第四小学校内にある民具室で行っているが、受け入れる民具の規格によっては、搬入場所が変わるため事務的効率は多少下がる。						
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		A			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組		
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し					民具調査指導員が不在のため、寄贈民具の受け入れ判断に苦慮することが多い。収蔵も分散して保管しているがほぼ空きスペースの無い状況になってきている。今後も継続して民具類の収集・整理を行うには指導員の配置と分散して保管されている民具を1ヶ所にまとめ、かつ、今後更に受け入れる民具類を収蔵するためのスペース（収蔵室）が必要。					
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し										
	C 抜本的な見直し										
	D 縮小・廃止										
E 現状を維持											

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	郷土資料室管理運営		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	小林 光吉						
			係	文化財担当	電話	2259						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			法令による事業実施義務						
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	05	文化財										
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード		款	10	項	04	目	03	細目	005	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民及び一般見学者						市内で出土（発掘）した埋蔵文化財遺物（土器、石器類）、また、市民等から寄贈を受けた民具類など合計で、約1,400点を展示、一般に広く公開し、活用を図るとともに、郷土の歴史等、文化財保護思想の高揚・普及・啓発に努める。					
	実施内容						実績・成果					
	郷土資料室は、現在、昭島市昭和町分室（総務部契約管財課所管）の2階の一角を使用している。展示内容は、市文化財保護審議会委員等の指導により実施している。週3日（水、土、日曜日：正午～午後4時）開室しているが、その管理業務については、シルバー人材センターに委託している。 また夏期間については、子供たちの自由研究（夏休宿題）に10日間特別開室している。なお、平成25年度は、（水、土、日曜日除く）文化財ボランティアガイドを活用し開室する。						郷土資料室には、市内で出土した埋蔵文化財遺物（土器、石器類）、また、市民等から寄贈を受けた民具類など合計で、約1,400点を展示している。 平成14年3月に開設し、平成24年度末までに累計約8,600人（平成24年度1,022人）の見学者があり、市内小学校3年、4年生の社会科の授業の一環で見学を訪れている。					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	570	542	530	555					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	570	542	530	555						
一般職員人件費		千円	830	820	820	820						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	1,400	1,362	1,350	1,375						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				2	
	判断理由				判断理由							
	文化財は保護・保存するだけでなく、活用することが重要であり、埋蔵文化財から出土の土器類や民具類の展示により市域において人の営みがあったことを知ることができる。また、市内小学校の社会科の授業の一環で見学を訪れ、見、触れるなどの貴重な体験ができる場となっている。				現状は、運営管理を委託して開設している。通常開室が週3日、特別開室が夏季休業期間中10日間開室しているが、開室日以外に市内小学校数校が訪れるため、その場合には市担当者が対応している。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由				判断理由								
平成13年度の開設以来、約8,600人の入場者数があり年間平均としては約700名程度。市民に限らず市外からの来場者もあるが、施設が2階にあるため車イス利用者等で見学に行けないなどの声もある。また、市内の小学校等の団体見学も年々わずかではあるが、増えてきている。				現況の郷土資料室には、常設展示以外の展示を行うスペースは無いため企画展等の開催ができない。また、民具類の保管場所がなく、分散して保管しているため展示品の入れ替えが難しい。								
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		B			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し					管理運営を委託により行っているが、現在養成を行っている文化財ボランティアガイドを活用の検討を行う必要がある。						
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し											
	C 抜本的な見直し											
	D 縮小・廃止											
	E 現状を維持											

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市立会館運営事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	鈴木 賢治						
			係	社会教育係	電話	2253						
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>									
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	昭島市立会館条例、昭島市立会館条例施行規則、昭島市公共施設予約システムの利用登録に関する規則									
	大項目	02 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）	法令による事業実施義務									
中項目	01 生涯学習	<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）										
個別計画（年度）												
予算科目コード	款	10	項	04	目	04	細目	001	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市民、団体					誰もが気軽に利用できる市立会館を提供することにより、市民の自主的なグループやサークル、団体の活動を推進し、交流を深め、生涯学習の充実を図る。						
	実施内容					実績・成果						
	市民の生活に根ざした自主的、自発的な学習、文化、レクリエーションの機会と活動の場を提供することを目的として、各会館によって違いはあるが、集会室、休養室、学習室、音楽室、保育室、多目的室が設置されており、会合や趣味、軽スポーツ、調理実習、音楽活動、パソコン講習、個人の読書などに利用されているほか、情報コーナーとして設置された掲示板や雑誌架に置かれた行政資料や市民の活動のパンフレットの利用により市民生活に必要な資料や情報の交換ができる場となっている。					24年度は、11会館合計で、30,601団体、338,843人に、趣味や学習の場として利用されている。						
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	101,973	108,275	103,395	112,797	国庫支出金				
	財源内訳	国庫支出金	千円	1,415	2,217	1,517	7,822	・社会資本整備総合交付金				
		都支出金	千円			810	1,200	・特定防衛施設周辺整備調整交付金				
地方債		千円					都支出金					
その他特定財源		千円	373	406	351	359	・市町村総合交付金					
一般財源	千円	100,185	105,652	100,717	103,416	その他特財						
一般職員人件費	千円	29,050	27,880	27,880	19,680	・庁舎等光熱水費						
人工数	人	3.50	3.40	3.40	2.40	・複写機利用料						
再任用職員人件費	千円		410	410	410	・電話料						
人工数	人		0.10	0.10	0.10	・雇用保険料						
総事業費	千円	131,023	136,565	131,685	132,887							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				1	
	判断理由		社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は4番目である。				判断理由		会館の運営については、武蔵野会館のみが武蔵野会館運営協議会で運営している。今後は、他の10館も地域で運営することを検討していくべきである。また、受益者負担については、有料とすることも検討すべきである。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由		24年度は11会館合計で30,601団体、338,843人に趣味や学習の場として利用された。				判断理由		会館の職員は再任用職員や再雇用職員を活用し、夜間は一般選考の管理員を配置し人件費を抑制している。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		現状における課題 ○受益者負担の観点から有料化とすることが望ましいが、無料化維持を要望する声が多い。 ○地域住民による運営も組織づくりも容易ではない。			現状維持						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	野外活動施設管理事業		部	生涯学習部	課長	片岡 国幹						
			課	社会教育課	担当	鈴木 賢治						
			係	社会教育係	電話	2253						
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>							
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		昭島市富士見高原野外活動施設運営要綱、昭島市北秋川山の家運営要綱							
	大項目	02	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）		法令による事業実施義務							
中項目	01	生涯学習										
個別計画（年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）							
予算科目コード	款	10	項	04	目	04	細目	003	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市内の青少年団体及び社会教育関係団体等					市内の青少年団体及び社会教育関係団体等が野外活動を通して生活体験し、集団生活による仲間との交流により、青少年等の健全な育成を図る。						
	実施内容					実績・成果						
	・富士見高原キャンプ場 ・北秋川山の家 市内の青少年団体及び社会教育関係団体等の団体が、野外活動を通じて自然に接し、また集団生活を通して仲間づくりや交流を深める。					富士見高原キャンプ場では、8団体220人、北秋川山の家では、10団体269人、合計18団体489人の市内の青少年団体及び社会教育関係団体等が利用した。自然環境の中で生活経験、環境学習を体験したことにより、青少年の健全な育成ができ、生涯学習の推進となった。						
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	1,560	1,887	1,682	1,758					
	財源内訳	国庫支出金		千円								
		都支出金		千円								
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	1,560	1,887	1,682	1,758						
一般職員人件費		千円	830	820	820	820						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円	820									
人工数		人	0.20									
総事業費		千円	3,210	2,707	2,502	2,578						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		社会教育課に属する任意の11事業のうち、当該事業の優先度は10番目である。				判断理由		北秋川山の家は夏場のみの利用のため、奥秋川振興会と宿泊数に応じた賃貸借の契約とし、有効利用をしている。富士見高原キャンプ場も期間中について、施設管理・点検等を委託し省力化をしている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由		ストレスの多い現代社会に生活していると、大自然とのふれ合いによって心身ともにリラックスすることは大切である。障害のある青少年の団体、リーダー講習会では、毎年利用している。また、キャンプ用具の貸出しを、昭和会館にて行なっていて、青少年団体や社会教育関係団体の野外活動に利用している。				判断理由		利用者は施設利用が無料であり、キャンプに必要なテント・毛布・調理器具などは用意できている。管理委託により、施設の開設・閉設・点検などの業務が適切に行なわれている。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○夏期のみ利用であり、利用希望が土日集中することから、利用者の増加はあまり見込めない。 ○富士見高原野外活動施設は、キャンプ場、管理棟、宿泊棟、トイレ、シャワー室があり、管理棟、宿泊棟は、平成8年の建築で、今後建物の修繕など維持管理の費用の増が見込まれる。 ○野外活動施設の維持管理など全般的な運営の見直しの必要がある。			現状維持						



平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	格技道場管理		部	生涯学習部	課長	石川千尋						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務							
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり							
予算科目コード	款	10	項	04	目	04	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	社会教育関係団体						スポーツ・レクリエーションの振興を図る					
	実施内容											
	格技道場（畳92畳敷）を社会教育関係団体を対象に、柔道・空手・軽体操などの場として貸し出しをしている。						実績・成果					
							利用団体数：6団体 利用回数：456回 利用者総数：5,570人					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	7,173	5,824	5,411	5,416	都支出金 ・緊急雇用創出事業 臨時特例補助金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
都支出金		千円	1,433									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般職員人件費	千円	830	820	820	820							
人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.10							
再任用職員人件費	千円											
人工数	人											
総事業費	千円	8,003	6,644	6,231	6,236							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	柔道、合気道練習生・愛好家にとって、一般で武道場を使用できる施設は少ないため、必要性は高い。					判断理由	大規模改修等ができない状況の中では、大幅な利用拡大を図ることは困難であり、貸出対象の範囲を定めて実施している。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	総合スポーツセンター柔道場・剣道場は他種目での利用もあることから、柔道協会・空手道協会の活動拠点として格技道場が利用されている。					判断理由	昭和49年に開設された道場で老朽化も進んでるが、一定の維持管理コストで適切な対応を図っている。23年度は緊急雇用事業で樹木剪定を行った。ほぼ毎日使用がある状況である。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	都市計画道路予定地であるため、老朽化に伴う大規模改修ができず、利用の拡大が困難な状況である。毎年、国への敷地借上げ料が発生している。				決算状況等を踏まえ、事業費の見直しや削減を検討する。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	保健体育事務		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）								
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）										
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	002	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり
											<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市のスポーツ振興に係る事務					市民が健康で明るい生活を営めるよう、保健体育事務を円滑に行う。					
	実施内容										
	職員被服貸与、事務用品購入、事業の傷害保険加入等の事務処理					課長1、係長1、職員4、再任用職員（週31時間）1、再任用職員（2週で38時間45分）2。					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	721	728	685	831	その他特財 ・市民総合賠償補償 保険金			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
その他特定財源		千円	135	150	140	250					
一般職員人件費	千円	6,640	6,560	6,560	6,560						
人工数	人	0.80	0.80	0.80	0.80						
再任用職員人件費	千円										
人工数	人										
総事業費	千円	7,361	7,288	7,245	7,391						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	市民が健康で明るい生活が営めるよう、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の提供と場の整備を図るために必要。				判断理由	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の提供と場の整備に係る事務処理等は、一元的に行うことが有効であると判断する。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
	判断理由	円滑に事業が実施できている。				判断理由	事務経費については、前例にとらわれず常にコスト意識をもち事務執行にあたっている。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	小中学生や社会人を対象とした事業、会議のため、夜間や土日の時間外勤務が多い状況にある。			決算状況等を踏まえ、事業費の見直しや削減を検討する。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署					
	スポーツ推進委員事務		部	生涯学習部	課長	石川千尋		
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一		
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152		
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>			
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		スポーツ基本法			
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）		昭島市スポーツ推進委員に関する規則				
中項目	04	スポーツ・レクリエーション		法令による事業実施義務				
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり			
予算科目コード	款	10	項	05	目	01		
				細目	003	細々目	01	
事務事業概要	目的							
	<対象は誰、何か>		<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	スポーツ推進委員		スポーツ推進委員活動を円滑に進める。					
	実施内容		実績・成果					
	スポーツ推進委員の報酬、旅費、貸与品、スポーツ安全保険加入等の事務処理及び活動支援		スポーツ推進委員は、市や地域主催のスポーツ行事等に協力し、市民のスポーツ振興に寄与している。（委員 18人）					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>
	直接事業費		千円	3,373	3,012	2,933	2,635	
	財源内訳	国庫支出金	千円					
		都支出金	千円					
		地方債	千円					
その他特定財源		千円						
一般職員人件費		千円	6,640	6,560	6,560	6,560		
人工数		人	0.80	0.80	0.80	0.80		
再任用職員人件費		千円						
人工数		人						
総事業費		千円	10,013	9,572	9,493	9,195		
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による							
	①優先度（どの程度優先されるべきか）		4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）		3	
	判断理由	スポーツ基本法第32条の規定に基づき教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員の活動を支援する必要がある。		判断理由	国や東京都、各区市町村等からの情報処理や、委員の活動経費の支出などの事務処理は、現在の「主管課における一元処理」が有効であると判断する。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）		4		④効率性（効率的に実施できたか）			
判断理由	チャレンジデーや国体に向けた事業など、新たな任務も増加傾向にあるが、円滑に事業等が実施できている。		判断理由	スポーツ推進委員定例会を毎月開催し、そのなかで情報の共有を図っている。また、上部団体等が開く研修会にも積極的に参加し、技術の向上に努めている。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題	平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			引き続き、スポーツ推進委員が十分な力を発揮できる環境を整えていく。	スポーツ推進委員の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。			

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民健康づくり歩け歩け運動事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務							
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり							
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	004	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市内在住・在勤者とその家族・友人						健康づくりにおける歩くことの重要性を確認し、家族・友人と一緒に歩く野外活動の楽しさを味わう。					
	実施内容											
	年2回の市民健康づくり歩け歩け運動の実施及び定められた距離を踏破した者の認定・記録表彰。						実績・成果 年2回の市民健康づくり歩け歩け運動が実施され、自然にしみながら歩くことにより、市民の交流及び健康づくりが図られた。 第118回（5月20日）13km 参加者79人 第119回（11月4日）14km 参加者92人（表彰） 1,000km－1人 500km－4人					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	352	447	356	435					
	財源内訳	国庫支出金		千円								
		都支出金		千円								
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般職員人件費		千円	830	820	820	820						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	1,182	1,267	1,176	1,255						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		日常生活で歩くことが少なくなってきた。健康づくりにおける歩くことの重要性を確認してもらう。				判断理由		スポーツ推進委員が指導員となって開催。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由		定められた距離を踏破したことによる認定及び記録表彰を行うことにより参加意欲が高められる。				判断理由		年2回の事業を楽しみにしている市民は多い。一定の距離を歩くことによって表彰されることで市民の健康づくり、体力づくりの場となっている。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E				現状における課題				平成26年度予算編成における具体的な取組	
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		ウォーキングを主な活動としている団体等への委託の可能性を追求するとともに、受益者負担（参加費）導入の可能性についても検討する必要がある。				決算状況等も踏まえ、歩け歩け運動の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。					

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	スポーツ・レクリエーションフェスティバル開催事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務							
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）											
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	005	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり	
											<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市民					スポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起し、体力及び健康増進への意識の高揚を図る。						
	実施内容											
	毎年体育の日に、だれもが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動として、体育協会・ゲートボール協会・レクリエーション研究会等の協力を得てスポーツ・レクリエーションフェスティバルを実施。					体育の日（10月8日）に昭和公園屋外運動施設（野球場・陸上競技場・テニスコート）及び総合スポーツセンターにおいて「市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル2012」を開催。						
	会場は昭和公園屋外運動施設（野球場・陸上競技場・テニスコート）及び総合スポーツセンター。					屋外メニュー17種、屋内メニュー20種。						
						参加人数（延べ）3,919人。						
						スポーツ・レクリエーション活動を通じて、健康づくりと交流が図られた。						
	実績・成果											
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
直接事業費		千円	29	30	27	30						
財源内訳	国庫支出金		千円									
	都支出金		千円									
	地方債		千円									
	その他特定財源		千円									
一般財源		千円	29	30	27	30						
一般職員人件費		千円	830	820	820	820						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	859	850	847	850						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由		スポーツ・レクリエーションに、だれもが気軽に参加でき、親しむきっかけづくりが必要。				判断理由		体育協会と共催形式をとり、スポーツ・レクリエーションを気軽に体験等できる「まつり」を重視したイベントとなっている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由		毎年「体育の日」に実施することにより、フェスティバルの開催が市民に定着してきており、多くの方に楽しんでいただいている。				判断理由		体育協会・ゲートボール協会・レクリエーション研究会、昭島くじらスポーツクラブ、ターゲットバードゴルフ協会等がボランティアで協力。また、一部の経費は体育協会が負担。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		A		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		新たな種目の導入も視野に入れたメニューを検討。			23年度はツリー・イング、24年はミニサッカー教室等新たに種目を増やしたが、25年度以降も新たな種目の導入を検討する。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	市民体育大会等開催事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法					
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）										
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	006	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民体育大会「種目別大会」：市内在住在勤者、市民体育大会「自治会ブロック別大会」：市民、「市民綱引き大会」：市内在住在勤者、「シニア軟式野球大会」：市内在住・在勤の60歳以上の者、「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：市民					スポーツ・レクリエーションを通じて市民の交流を深めるとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として開催。また、体力及び健康増進への意識の高揚を図る。					
	実施内容					実績・成果					
	「種目別大会」：体育協会に委託し24種目を実施。 「自治会ブロック別大会」：自治会連合会に委託し、20のブロックが14会場で開催。 「市民綱引き大会」：自治会連合会・スポーツ推進委員・商工会で構成する実行委員会に委託し、一般の部・スポレクの部、女子の部を実施。 「シニア軟式野球大会」：還暦軟式野球連盟を主体とする実行委員会に委託し、実施。 「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：自治会連合会・スポーツ推進委員で構成する実行委員会に委託し、インドアベタंकを実施。					「種目別大会」：参加者 7,571人 「自治会ブロック別大会」：参加者 14,792人 「市民綱引き大会」：参加チーム数 14チーム（124人） 「シニア軟式野球大会」：参加者 74人 「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：24チーム（98人）					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	8,333	9,165	8,796	8,225	その他特財 ・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
その他特定財源		千円		380	365	300					
一般職員人件費	千円	4,980	4,920	4,920	4,920						
人工数	人	0.60	0.60	0.60	0.60						
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	13,313	14,085	13,716	13,145					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	昭島市におけるスポーツの振興と、市民の健康づくり、市民相互の交流等、その果たす役割は大きく、今後も継続して行く必要がある。				判断理由	それぞれ体育協会、自治会連合会、実行委員会に委託をして実施しているが、運営等も順調である。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			4		
判断理由	「自治会ブロック対抗スポーツ大会」の競技種目をインドアベタंकにしたところ、小学生から高齢者までの参加を得ることが出来た。				判断理由	多摩・島しょスポーツ振興事業助成金を活用することにより、新たな大会を実施することが出来た。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	「市民綱引き大会」について、参加者が見込みを下回ったため、今後、事業運営方法等を検討する必要がある。			「全国市長会市民総合賠償補償保険」の契約種目の変更に伴い、各種事業毎に支出していた保険料の見直しを行った。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	新春駅伝競走大会開催事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>							
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		スポーツ基本法							
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04	スポーツ・レクリエーション		法令による事業実施義務								
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	007	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市内在住・在勤・在学の中学生以上の者で編成するチーム（一般男子1部は、市外の中学生以上の者で編成するチームの参加を認める。）					スポーツの振興と走ることによる健康づくり・市民の交流をはかる。						
	実施内容					実績・成果						
	市内周回コースで一般の1部、同2部、女子の部、壮年の部、中学男子の部、中学女子の部の6部門で駅伝競技を行う。1チームは6人（一般男子1部のみ5人）。運営は陸上競技協会へ委託。参加費は傷害保険料等として正選手1人100円、ゼッケン代として1チーム1,000円を徴収するが、中学生のみのチームは免除。					平成25年1月13日開催。参加チーム数 235チーム、参加人数 1,635人。						
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	2,146	2,240	2,127	2,191	その他特財 ・各種講習会受講料				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円	63	50	75	50						
一般職員人件費	千円	4,980	4,920	4,920	4,920							
人工数	人	0.60	0.60	0.60	0.60							
再任用職員人件費	千円											
人工数	人											
総事業費	千円	7,126	7,160	7,047	7,111							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3			
	判断理由			新春を飾るスポーツとして市民に定着しており、参加者も多い。また、中学校運動部からの参加も多い。			判断理由			運営については、陸上競技協会に委託。中学生のみのチームを除き、保険料、ゼッケン代を徴収。看板設置等、一部業務については民間に委託。		
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3			
判断理由			新春を飾るスポーツとして市民に定着しており、沿道での応援も多い。また、参加者数・チーム数とも昨年を上回る参加を得ることが出来た。			判断理由			警察、消防、体育協会等の協力を得て中学生から大人まで多くの市民が参加している大会である。出場チーム数は年々増加傾向にある。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		今後も、大会を取巻く交通環境等の変化に対応しつつ、安全で楽しめる大会の開催を追求する必要がある。また参加者から迅速にタイムや順位を教えてもらいたいという要求が年々高まっており、他の自治体の駅伝大会でも取り入れている電子チップの導入が課題である。			駅伝大会開催の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	選手・役員大会派遣事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）								
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	008	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市内在住・在勤・在学者					日頃の練習の成果を発表し、併せて技術を向上させる機会として市代表を派遣					
	実施内容										
	体育協会に委託し、市代表の選手・役員を各種大会に派遣する。 （派遣大会） 都民体育大会、市町村総合体育大会、 都民生涯スポーツ大会、都民スポレクふれあい大会 また、市町村総合体育大会開催にあたり負担金を支出。					実績・成果 都民体育大会：21種目 245人 市町村総合体育大会：18種目164人 都民生涯スポーツ大会及び都民スポレクふれあい大会：12種目 148人 市町村総合体育大会負担金 310,000円					
	コスト										
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	1,295	1,693	1,489	980				
	財源内訳	国庫支出金		千円							
		都支出金		千円							
地方債		千円									
その他特定財源		千円									
一般財源		千円	1,295	1,693	1,489	980					
一般職員人件費		千円	830	820	820	820					
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	2,125	2,513	2,309	1,800					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由		市を代表する選手・役員を派遣することは、今後も生涯スポーツ活動支援の一環として継続していく必要がある。				判断理由		各大会への選抜・派遣は体育協会に委託している。		
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由		上部大会への選抜・派遣は、スポーツの振興に果たす役割は大きい。				判断理由		毎年行われる都民体育大会、市町村総合体育大会、都民生涯スポーツ大会に500人程度の参加者があり日頃鍛えた力と技を発揮している。ほぼ毎年入賞以上の成績を残している。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		事業委託先（体育協会）と協議し、派遣人員の適正数を検証していく。			選手・役員大会派遣事業の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。					



平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	スポーツ団体補助事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱					
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）										
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	009	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	社会教育関係団体					市民の自主的な社会教育活動を推進し、社会教育の発展を図る。					
	実施内容										
	次の団体に補助金を交付する。 ・体育協会 ・リトルリーグ野球協会 ・少年野球連盟 ・早朝軟式野球連盟 ・ゲートボール協会 ・フットベースボール協会					次の団体に補助金を交付した。 ・体育協会（2,260,000円） ・リトルリーグ野球協会（258,000円） ・少年野球連盟（103,000円） ・早朝軟式野球連盟（100,000円） ・ゲートボール協会（400,000円） ・フットベースボール協会（50,000円）					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	3,275	3,226	3,223	3,206				
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
その他特定財源		千円									
一般財源		千円	3,275	3,226	3,223	3,206					
一般職員人件費		千円	830	820	820	820					
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	4,105	4,046	4,043	4,026					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	市民の自主的な社会教育活動を促進し、市の社会教育の発展を図る。				判断理由	昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、補助金を支出。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由	各団体とも、大会を開催するなど有効に使用されている。				判断理由	市の体育・スポーツ団体の発展を図るための補助事業であり、各団体とも毎年総会を開き、予算・決算及び事業計画を報告し効率的な運営に努めている。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	団体の総収入額に占める割合等を慎重に検討し、引き続き適正な補助に努める			他市の状況等も参考にしながら団体に対する補助金の見直しを検討していく。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署																																																																															
	スポーツ・レクリエーション施設及び学校開放事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋																																																																												
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一																																																																												
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152																																																																												
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>																																																																												
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法																																																																												
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			昭島市立学校施設設備使用条例																																																																												
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務																																																																													
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり																																																																													
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	010	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり																																																																							
事務事業概要	目的																																																																																	
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>																																																																												
	市民					スポーツ・レクリエーション活動の場として施設を開放																																																																												
	実施内容					実績・成果																																																																												
	スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場：5月～10月毎週水・金曜日）（昭和公園テニスコート：5月～9月毎週水・金・第3日曜日） 小学校プール開放：富士見丘小・つつじが丘南小・拝島第2小・拝島第3小 夏休み期間中5日間PTAに委託して実施 校庭夜間照明施設開放：つつじが丘北小・拝島第4小・昭和中 4月～11月（校庭・テニスコート）					スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）：利用人数 993人 小学校プール開放：利用人数 1,562人 校庭夜間照明施設開放：利用人数 6,531人																																																																												
	コスト																																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(単位)</th> <th>23決算</th> <th>24当初予算</th> <th>24決算</th> <th>25当初予算</th> <th>備考&lt;特財名称等&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接事業費</td> <td>千円</td> <td>910</td> <td>80</td> <td>927</td> <td>1,061</td> <td rowspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td>910</td> <td>80</td> <td>927</td> <td>1,061</td> </tr> <tr> <td>一般職員人件費</td> <td>千円</td> <td>830</td> <td>820</td> <td>820</td> <td>820</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>千円</td> <td>1,740</td> <td>900</td> <td>1,747</td> <td>1,881</td> </tr> </tbody> </table>												(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>	直接事業費	千円	910	80	927	1,061		財源内訳	国庫支出金	千円				都支出金	千円				地方債	千円				その他特定財源	千円				一般財源	千円	910	80	927	1,061	一般職員人件費	千円	830	820	820	820	人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	再任用職員人件費	千円					人工数	人					総事業費	千円	1,740	900	1,747	1,881
		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>																																																																											
	直接事業費	千円	910	80	927	1,061																																																																												
	財源内訳	国庫支出金	千円																																																																															
都支出金		千円																																																																																
地方債		千円																																																																																
その他特定財源		千円																																																																																
一般財源	千円	910	80	927	1,061																																																																													
一般職員人件費	千円	830	820	820	820																																																																													
人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.10																																																																													
再任用職員人件費	千円																																																																																	
人工数	人																																																																																	
総事業費	千円	1,740	900	1,747	1,881																																																																													
個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による																																																																																		
事務事業評価	①優先度（どの程度優先されるべきか）			2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3																																																																									
	判断理由			スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）は、個人や家族連れの方が事前予約にこだわらず、気軽にスポーツ施設を利用することができる。 小学校プール開放は、市営プールに比較的遠距離の児童を対象に、体力向上、健康増進の場として小学校プールを開放し、児童の健全な育成を図る。 校庭夜間照明施設開放は、社会人等のスポーツ参加への機会確保・拡大を図っている。		判断理由		スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）は、開放時間中、硬式テニス・ソフトテニス・陸上競技の各協会に管理指導を依頼（有償）。 小学校プール開放は、該当校のPTAに委託。 校庭夜間照明施設開放の受付は、総合スポーツセンター受付業務に含めて民間業者へ委託。利用者からは夜間照明施設利用料として校庭1,300円（昭和中校庭全面利用は2,600円）、テニスコート800円を負担してもらっている。																																																																										
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3																																																																									
	判断理由			各事業とも利用者は多い。		判断理由		校庭夜間照明施設開放は、学校施設等を使うため低コストで子どもから大人まで多くの市民にスポーツを楽しんでもらっている。																																																																										
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組																																																																										
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		スポーツ・レクリエーション施設開放事業や小学校プール開放事業の委託先として民間事業者等も検討できる。			利用状況等もみながら必要な予算計上をしていく。																																																																												

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	親子ふれあいスポーツデー開催事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）								
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	011	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市内の小学生とその保護者					親子がいっしょにスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通じてふれあいを深める機会を提供する。					
	実施内容										
	市の東部・中部・西部・青梅線北側の各地区で、年1回ずつ計4回、土曜日の午前中に小学校の校庭及び体育館を利用して「親子ふれあいスポーツデー」を開催。 なお、本年度は、「全国都市緑化フェアTOKYO」の開催に合わせ、第3回を昭和記念公園で開催することとした。 種目）ストラックアウト（ボール・フリスビー）、輪投げ、ドッチビー、グラウンドゴルフ、インドアペタンク、新体カテスト					実績・成果 第1回（中神小）参加者 77人 第2回（東小）参加者 40人 第3回（昭和記念公園）雨天中止 第4回（拝島一小）参加者 111人					
	コスト										
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	124	80	60	80	その他特財 ・寄附金			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
地方債		千円									
その他特定財源		千円	47								
一般職員人件費	千円	830	820	820	820						
人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費	千円										
人工数	人										
総事業費	千円	954	900	880	900						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	親子がスポーツを一緒にすることを通じて交流を一層深める機会を提供。				判断理由	スポーツ推進委員、レクリエーション研究会、グラウンドゴルフ協会の協力を得て実施。各回、指導員3人（@1,250円×4時間×3人）を依頼。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）					④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由	余暇の過ごし方が多様化してきており、親子でいっしょに来場される参加者は少ない。				判断理由	スポーツ推進委員らの協力のもと小学校の校庭・体育館を使い、土曜日の午前中に親子でスポーツを楽しんでもらっているが、週休2日制が定着してきたためか親子の参加者が少なくなっている。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	A		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	青少年とともにあゆむ各小学校地区委員会でも、スポーツ大会を開催している現状もあることから、今後は、同委員会事業との一本化や事業内容の見直し等、検討する必要があると思われる。			人気種目を追加するなど、参加者増に努める。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署																																																																									
	チャレンジデー開催事業		部	生涯学習部	課長	石川千尋																																																																						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一																																																																						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152																																																																						
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>																																																																							
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ基本法																																																																						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			昭島市立学校施設設備使用条例																																																																						
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務																																																																							
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）																																																																											
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	013	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり																																																																	
											<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり																																																																	
事務事業概要	目的																																																																											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>																																																																						
	市民					市民一人ひとりが、それぞれに応じた運動やスポーツ等を日常的に行う。																																																																						
	実施内容					実績・成果																																																																						
	毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に参加。 （内容）人口規模のほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して運動やスポーツ等の身体活動（運動）を行った住民の「参加率」を競い合う。体育協会や健康づくり推進協議会、商工会、自治会連合会などにより昭島市チャレンジデー実行委員会を構成し、事業を委託。					開催日：5月30日（水） 参加人数：87,970人 参加率：78.9% 対戦相手：長崎県大村市（68.1%）																																																																						
	コスト																																																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(単位)</th> <th>23決算</th> <th>24当初予算</th> <th>24決算</th> <th>25当初予算</th> <th>備考&lt;特財名称等&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接事業費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>300</td> <td>210</td> <td>1,000</td> <td rowspan="10">その他特財 ・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td>700</td> </tr> <tr> <td>一般職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>1,640</td> <td>1,640</td> <td>2,460</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.30</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>1,940</td> <td>1,850</td> <td>3,460</td> </tr> </tbody> </table>												(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>	直接事業費	千円		300	210	1,000	その他特財 ・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金	財源内訳	国庫支出金	千円				都支出金	千円				地方債	千円				その他特定財源	千円			700	一般職員人件費	千円		1,640	1,640	2,460	人工数	人		0.20	0.20	0.30	再任用職員人件費	千円		0	0	0	人工数	人		0.00	0.00	0.00	総事業費	千円		1,940	1,850	3,460
		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>																																																																					
	直接事業費	千円		300	210	1,000	その他特財 ・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金																																																																					
	財源内訳	国庫支出金	千円																																																																									
都支出金		千円																																																																										
地方債		千円																																																																										
その他特定財源		千円			700																																																																							
一般職員人件費	千円		1,640	1,640	2,460																																																																							
人工数	人		0.20	0.20	0.30																																																																							
再任用職員人件費	千円		0	0	0																																																																							
人工数	人		0.00	0.00	0.00																																																																							
総事業費	千円		1,940	1,850	3,460																																																																							
個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による																																																																												
事務事業評価	①優先度（どの程度優先されるべきか）			4	②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3																																																																				
	判断理由			スポーツ等の力で「元気都市あきしま」を目指す。	判断理由			体育協会をはじめ、広範な団体・事業所の連携により事業を遂行できた。																																																																				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			5	④効率性（効率的に実施できたか）			5																																																																				
	判断理由			参加率78.9%を獲得し、同規模の自治体クラスで最優秀賞を受賞。	判断理由			市予算300千円の中でPRや参加の呼びかけが効率的にできた。																																																																				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	A			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組																																																																				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	参加率を維持すべく、さらに広範な団体・事業所への働きかけが必要。			参加率を維持すべく、さらに広範な団体・事業所への働きかけが必要。			チャレンジデーの認知度を高めるため、イベント等を開催。 運動やスポーツ等を日常的に行う団体、事業所等を対象に、認定制度を実施。																																																																				

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	総合スポーツセンター管理運営		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			昭島市総合スポーツセンター条例					
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）										
予算科目コード	款	10	項	05	目	02	細目	001	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり
											<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民・団体等					市民の公共スポーツ施設の拠点として充実したサービスを提供					
	実施内容					実績・成果					
	総合スポーツセンターの管理・運営等を民間に委託し、官民一体となって充実したサービスを提供していく。また、各種スポーツ教室についても民間に委託し、効果的な運営を行う。 総合スポーツセンター：体育室、軽体操室、柔道場、剣道場、弓道場、温水プール、トレーニングルーム、研修室 スポーツ教室：「健康さわやか教室」「親子体操教室」等24事業					団体利用 ・体育室（2ヶ所）：1,818件 ・軽体操室（2ヶ所）：3,097件 ・柔剣道場：1,167件 ・弓道場：426,392件 ・温水プール：1,278件 個人利用 ・軽体操室（2ヶ所）：1,867人 ・柔剣道場：3,892人 ・弓道場：1,121人 ・温水プール：49,257人 ・トレーニングルーム：71,024人					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	186,616	185,224	193,425	191,019	国庫支出金 ・きめ細かな交付金 その他特財 ・総合スポーツセンター使用料 ・庁舎等光熱水費 ・行政財産使用料 ・各種講習会受講料 ・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金			
	財源内訳	国庫支出金	千円	900							
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
その他特定財源		千円	68,734	67,645	67,567	68,458					
一般職員人件費	千円	1,660	1,640	1,640	1,640						
人工数	人	0.20	0.20	0.20	0.20						
再任用職員人件費	千円	3,280	4,100	4,100	4,100						
人工数	人	0.80	1.00	1.00	1.00						
総事業費	千円	191,556	190,964	199,165	196,759						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	廉価で通年利用できる温水プールやトレーニングジム、屋内競技用の体育施設は、市民の健康づくりのために必要。				判断理由	総合スポーツセンターの管理・運営及び各種スポーツ教室の開催は民間に委託し、官民一体となって充実したサービスを提供している。施設（駐車場含む）使用料は市民、他市民とも同額。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
	判断理由	市内には同規模以上の体育施設は無く、市内の公共スポーツ施設の拠点となって多くの市民に利用されている				判断理由	体育室、温水プール、トレーニング室等を備えた体育館であるので一定の維持管理費はかかるが、省エネに努めている。利用者は増加傾向にある。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	市内料金、市外料金等の設定について検討できる。また、施設が老朽化してきている部分も見受けられるので、計画的な修繕等を検討する必要がある。			必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	みほり体育館管理運営		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			昭島市みほり体育館条例					
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）										
予算科目コード	款	10	項	05	目	02	細目	002	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり
											<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民・団体等					市民のふれあい、スポーツ・レクリエーションの場として設置					
	実施内容										
	体育室（420㎡）と研修室（66㎡）の貸出及び管理。9時～21時開館。毎月曜日休館。昼間は再任用職員又は臨時職員、夜間は管理員又は臨時管理員がそれぞれローテーションにより1人ずつ勤務。当該体育館施設は、都が都営住宅内に建設したものを使用許可（無償）を受け運営。					実績・成果					
						団体利用 ・体育室：919件（16,190人） ・研修室：349件（3,535人） 個人利用 ・体育室：2,022人					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	7,023	6,681	6,346	6,551	その他特財 ・みほり体育館使用料 ・雇用保険料 ・庁舎等光熱水費			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
地方債		千円									
その他特定財源		千円	2,034	1,982	2,180	2,384					
一般財源	千円	4,989	4,699	4,166	4,167						
一般職員人件費		千円	1,660	1,640	1,640	1,640					
人工数	人	0.20	0.20	0.20	0.20						
再任用職員人件費		千円	4,100	4,100	4,100	4,100					
人工数	人	1.00	1.00	1.00	1.00						
総事業費		千円	12,783	12,421	12,086	12,291					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	地域の体育館として定着しており、継続して利用する市民もいる。本市におけるスポーツ振興の拠点のひとつとして存続する必要がある。				判断理由	施設の管理は、昼間は再任用職員又は臨時職員、夜間は管理員又は臨時管理員がそれぞれローテーションにより1人ずつ勤務している。施設利用料は市民、他市民とも同額。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由	小規模ながら、市の西部にある体育施設として市民のスポーツ・レクリエーション活動に利用されている。				判断理由	市民の健康づくり、体づくり等に寄与している施設で一定の維持管理費はかかるが省エネに努めている。利用者は横ばいである。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				現在施設利用料は、市民、他市民とも同額であるが、市内料金、市外料金等の設定について検討の必要がある。また、施設が老朽化してきている部分も見受けられるので、計画的な修繕等を検討する必要がある。			必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。			

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	市民プール管理運営		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）								
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	03	細目	001	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民等					市民の夏季における健康づくりや遊びの場として開設					
	実施内容					実績・成果					
	7月21日（土）～9月2日（日）までの44日間（うち機械点検休業日2日）開設。運営は民間会社に委託。駐車場あり（東京都下水道局用地を無償借用）プールの種類）流水プール、25mプール、児童用プール、幼児用プール、スライダープール					利用料金 ・大人2時間 200円 ・小人2時間 50円 ・ロッカー代 50円 利用者数 ・大人 13,139人 ・小人 21,845人					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	20,396	37,812	31,462	30,228	都支出金 ・市町村総合交付金 その他特財 ・市民プール使用料			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円		6,800	4,000					
		地方債	千円								
その他特定財源		千円	4,265	4,779	5,003	5,140					
一般財源	千円	16,131	26,233	22,459	25,088						
一般職員人件費	千円	830	820	820	820						
人工数	人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費	千円										
人工数	人										
総事業費	千円	21,226	38,632	32,282	31,048						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	市民の夏季における健康づくりや遊びの場として、市営プールを開設。				判断理由	運営は民間会社に委託をし、経費の削減に努めている。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由	夏期における市民のレクリエーションの場として定着し、多くの市民が来場される。				判断理由	夏季における市民の健康づくり・体力づくりに寄与している施設であるが、利用者の安全を確保するため毎年多額な維持管理経費を必要とする。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	必要性は認められるものの、施設の老朽化も進行し、また、利用者に安全に使ってもらうためには多額な必要経費もかかるなかで、現在の厳しい財政状況下において施設を将来的に運営し続けるか検討する必要がある。			必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	拝島公園プール管理運営		部	生涯学習部	課長	石川千尋					
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一					
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）								
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	03	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民等					市民の夏季における健康づくりや遊びの場として開設					
	実施内容					実績・成果					
	7月21日（土）～9月2日（日）までの44日間（うち機械点検休業日2日）開設。運営は民間会社に委託。駐車場なし。プールの種類）25mプール、児童用プール、幼児用プール					利用料金 ・大人2時間 200円 ・小人2時間 50円 ・ロッカー代 50円 利用者数 ・大人 1,353人 ・小人 3,160人					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	12,554	11,890	12,270	11,036	その他特財 ・拝島公園プール使用料 ・庁舎等光熱水費			
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
		地方債	千円								
その他特定財源		千円	516	537	597	537					
一般財源		千円	12,038	11,353	11,673	10,499					
一般職員人件費		千円	830	820	820	820					
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	13,384	12,710	13,090	11,856					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	市民の夏季における健康づくりや遊びの場として、市営プールを開設。				判断理由	運営は民間会社に委託をし、経費の削減に努めている。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			3		④効率性（効率的に実施できたか）			3		
判断理由	市内西部地区における夏期の市民のレクリエーションの場として定着している。				判断理由	夏季における市民の健康づくり・体力づくりに寄与している施設であるが、利用者の安全を確保するため毎年多額な維持管理経費を必要とする。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	必要性は認められるものの、施設の老朽化も進行し、また、利用者に安全に使ってもらうためには多額な必要経費もかかるなかで、現在の厳しい財政状況下において施設を将来的に運営し続けるか検討する必要がある。			必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。						



平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	運動施設管理運営		部	生涯学習部	課長	石川千尋						
			課	スポーツ振興課	担当	青木昇一						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			スポーツ振興法						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション			法令による事業実施義務							
個別計画（年度）	昭島市スポーツ振興計画（平成19年度～平成27年度）				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり							
予算科目コード	款	10	項	05	目	03	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市民・団体等					市民の健康増進や体力づくり、スポーツを普及する場として提供						
	実施内容											
	市内の屋外運動施設の良好な維持管理作業を民間に委託して実施。 （屋外運動施設） 昭和公園：市民球場、陸上競技（サッカー）場、テニスコート（7面） 大神公園：サッカー場、野球場（4面） くじら運動公園：少年サッカー場（2面）、少年野球場（4面）、テニスコート（5面）、ソフトボール場（4面） 美の宮公園：ソフトボール場					実績・成果 （利用実績） 昭和公園：市民球場（150件）、陸上競技場（38件）、サッカー場（331件）、テニスコート（5,623件）、駐車場利用台数：71,790台 大神公園：サッカー場（655件）、野球場（2,586件） くじら運動公園：少年サッカー場（899件）、少年野球場（2,096件）、テニスコート（5,023件）、ソフトボール場（1,845件） 美の宮公園：ソフトボール場（386件）						
	コスト											
	直接事業費		千円	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	財源内訳	国庫支出金		千円	56,612	52,532	53,429	58,102	国庫支出金			
		都支出金		千円	15,380	3,200	2,800	327	・ 特定防衛施設周辺整備調整交付金			
		地方債		千円					都支出金			
その他特定財源		千円	16,361	15,201	17,904	18,356	・ 緊急雇用創出事業臨時特例補助金					
一般財源		千円	24,871	34,131	32,725	35,119	・ 市町村総合交付金					
一般職員人件費		千円	9,960	9,840	9,840	9,840	・ 国民体育大会運営費補助金					
人工数		人	1.20	1.20	1.20	1.20	その他特財					
再任用職員人件費		千円					・ 昭和公園運動施設等使用料					
人工数		人										
総事業費		千円	66,572	62,372	63,269	67,942						
事務事業評価	個別評価											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3			
	判断理由		市民の健康づくりのためにも、整備された運動施設は必要。				判断理由		受付及び維持管理作業は民間会社に委託している。大神公園及びくじら運動公園は、国から河川敷を無償借用し、運動施設に整備、利用している。昭和公園施設（駐車場含む）の利用は有料。大神公園・くじら運動公園・美の宮公園施設（駐車場含む）の利用は無料。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）			3		④効率性（効率的に実施できたか）			3			
	判断理由		年間を通じて利用者は多く、市民の健康づくりに寄与している。				判断理由		市民球場や陸上競技場等の運動施設は土日を中心に多くの市民の利用がある。施設整備も一定の維持管理コストで適切な対応を図っている。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
					利用者の安全・安心という面からも計画的な修繕等を検討する必要がある。			安全・安心のため必要な修繕を行う。				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し											
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し											
	C 抜本的な見直し											
D 縮小・廃止												
E 現状を維持												

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	スポーツ祭東京2013運営事業		部	生涯学習		課長	武藤 茂					
			課	国体推進室		担当	原 孝					
			係			電話	内線2247					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）									
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	04	スポーツ・レクリエーション				法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画（平成22年度～26年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	012	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input checked="" type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民、教育機関、市職員						平成25年度実施のスポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会）において、昭島市では、軟式野球競技が行われることを広く市民へ周知するとともに、大会開催に向け万全の準備を整える。					
	実施内容						実績・成果					
	○ 第3回実行委員会総会を開催 ○ 第2回常任委員会を開催 ○ 各専門委員会を開催 ○ 軟式野球競技開催6市連絡会を開催 ○ リハーサル大会を開催 ○ 先催県開催状況を視察 ○ 中学生軟式野球教室を開催 ○ 中学生ランニング教室を開催						平成25年度実施のスポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会）において、昭島市で行われる軟式野球競技開催の準備が進んでいる。					
	コスト											
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	1,633	5,425	8,975	34,563	都支出金				
	財源内訳	国庫支出金	千円					・国民体育大会競技普及啓発事業補助金				
		都支出金	千円	553	544	3,429	18,584	・緊急雇用創出事業臨時特例補助金				
地方債		千円		1,348	3,926	10	・スポーツ祭東京2013気運醸成・開催記念事業補助金					
その他特定財源		千円					その他特財					
一般職員人件費		千円	16,600	24,600	24,600	24,600	・多摩・島しょスポーツ振興事業助成金					
人工数		人	2.00	3.00	3.00	3.00						
再任用職員人件費		千円	3,280	4,100	4,100	4,100						
人工数		人	0.80	1.00	1.00	1.00						
総事業費		千円	21,513	34,125	37,675	63,263						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				4	
	判断理由				判断理由							
	スポーツ祭東京2013は、東京都において開催される。				平成24年度組織改正に伴い組織の充実が図れ、国体推進室が設置され、職員も4名となった。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由				判断理由								
スポーツ祭東京2013昭島市実行委員会第2回総会で決められた、平成24年度事業計画に沿っておおむね実施できた。				23年度より、コストもサービス量も増加した。								
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		D			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
						なし			なし			
A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持												

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署					
	市民図書館協議会事務		部	生涯学習部	課長	太田 勇		
			課	市民図書館	担当	磯村 義人		
			係	整理係	電話	042-543-1523		
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	図書館法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）	昭島市市民図書館協議会条例					
中項目	02 図書館活動	法令による事業実施義務						
個別計画（年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）			
予算科目コード	款	10	項	04	目	05 細目	002 細々目	01
事務事業概要	目的		<対象は誰、何か>		<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>			
	市民、図書館に関わる団体、教育機関、図書館職員、図書館の健全な発達		図書館運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、図書館長に対して意見を述べる。					
	実施内容		実績・成果					
	○図書館協議会の開催 ○子ども読書活動推進計画評価等会議の開催 ○図書館との共催事業「市民参加による先進図書館見学ツアー」の実施		○図書館協議会を年2回開催し、事務報告の承認等を行った。 ○子ども読書活動推進計画評価等会議において、進捗状況の確認を行った。 ○今後の昭島市における子ども読書活動推進計画の実施や図書館運営に活かすため、先進図書館の見学を行った。					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>
	直接事業費		千円	210	300	270	300	
	財源内訳	国庫支出金	千円					
		都支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他特定財源	千円					
一般財源		千円	210	300	270	300		
一般職員人件費		千円	830	820	820	820		
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10		
再任用職員人件費		千円						
人工数		人						
総事業費		千円	1,040	1,120	1,090	1,120		
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による							
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			3	②妥当性（実施方法は妥当であるか）			5
	判断理由	図書館運営に関して、図書館長に対して意見を述べる機関であり、必要度は高い。			判断理由	図書館法の趣旨に基づき活動がなされている。図書館法第14条に基づき設置、昭島市市民図書館協議会条例第3条に基づき公募委員2名を含めて委員を委嘱しており、実施方法は適切である。		
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4	④効率性（効率的に実施できたか）			4
判断理由	図書館運営にあたって的確な助言を得ている。			判断理由	子ども読書活動推進計画評価等会議の委員を図書館協議会委員と兼任することにより、委員の選任等事務手続きを省力化するとともに、8月及び3月の図書館協議会及び11月の子ども読書推進計画評価等会議を効率的に運営することができた。			
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E	現状における課題		平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		図書館法第17条の2の規定に基づき、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改定され、平成24年12月19日から施行された。図書館の運営状況について、目標及び事業計画の達成状況に関し自ら点検及び評価に努めなければならないとされた。図書館協議会の果たす役割が今まで以上に膨らんだ。		引き続き、市民図書館協議会の有効な活用を図るため、委員報酬を予算計上する。			

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署											
	市民図書館管理運営		部	生涯学習部	課長	太田 勇								
			課	市民図書館	担当	千葉 直樹								
			係	貸出係	電話	543-1523								
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>								
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			昭島市市民図書館設置条例、昭島市市民図書館運営規則、子ども読書活動推進計画。								
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）											
中項目	02	図書館活動												
個別計画（年度）					法令による事業実施義務									
予算科目コード					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）									
款	10	項	04	目	05	細目	003	細々目	01					
事務事業概要	目的													
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>								
	市民。図書館利用者に対するサービス提供。					市民一人当たりの貸出冊数を6.5冊以上。登録率の向上。子どもの読書への関心を深める。小学校へのブックトークの実施。デジタル図書事業の拡大。児童・青少年の図書館利用の促進。								
	実施内容					実績・成果								
	○小学校新一年生における貸出券の作成：「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行をふまえて平成14年度から実施。 ○おはなし会の実施：市民図書館本館、分館・分室で乳幼児から低学年向けのおはなし会を月1回以上実施。○小学校へのブックトーク実施 ○講演会・講習会の開催（子ども読書活動推進事業） 子ども向け：「夏休み楽しい科学あそび」、杉山亮氏の『ものがたりライブ』 保護者向け：「初めての読み聞かせ講座」、後路好章氏講演会『赤ちゃんは、こんな絵本を持っている』 市民向け：「あきしま語りのまつり」、「中学高校生の読書フォーラム」 ○ボランティア向け「おはなしボランティア向け講座」 ○デジタル図書作成講習会（初級）の実施 ○図書購入					新一年生884人中585人に貸出券を交付した。 おはなし会を本館、分館・分室合わせて186回実施し延べ1,472人の参加があった。小学校へのブックトークを実施（3校、述べ9回）。なしのき保育園でも3回行った。 講演会、講習会、講座を実施。（延べ359名が参加） デジタル図書を作成するための録音及び編集技術の習得のため11人の首訳者ボランティア（朗読者講習会（中級）終了者）が希望参加した。 図書の購入 20,201冊（一般13,706冊、児童図書6,495冊）購入し蔵書冊数は363,769冊となった。								
	コスト													
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>						
	直接事業費		千円	144,743	134,963	132,311	136,768	国庫支出金 ・住民に光をそそぐ交付金 都支出金 ・緊急雇用創出事業臨時特例補助金 ・障害者施策推進区市町村包括補助金 その他特財 ・複写機利用料 ・雇用保険料 ・行政財産使用料						
	財源内訳	国庫支出金	千円	9,617										
		都支出金	千円	3,789	3,688	3,896	3,539							
地方債		千円												
その他特定財源		千円	801	584	409	1,581								
一般職員人件費	千円	107,070	101,680	101,680	93,480									
人工数	人	12.90	12.40	12.40	11.40									
再任用職員人件費	千円	3,280	6,560	6,560	9,840									
人工数	人	0.80	1.60	1.60	2.40									
総事業費	千円	255,093	243,203	240,551	240,088									
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による													
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			5			②妥当性（実施方法は妥当であるか）			2				
	判断理由			小学校1年生に貸出券を新規作成し交付することで登録率と貸出率の向上につながっていく。おはなし会や読み聞かせ講座や講演会や保育園でのブックトークの実施は未就学児や乳幼児や保護者に対して、図書への親しみを持ってもらえる。小学校でのブックトークも同様。読書フォーラムの開催は、中高生の読書離れに歯止めをかける役割もある。新規図書を購入していくことは、最新の情報を発信する知の拠点としては必要なことである。			判断理由			図書館本来の業務を遂行しつつ、月1回以上の「おはなし会」と子ども読書活動推進事業としての講演会や講習会を年間7回実施出来ている。現状を維持し講演内容等の充実と向上を図っていくことに努めている。さらに、ボランティアを育成し向上させるため、ボランティア育成（向上）講座を実施している。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4			④効率性（効率的に実施できたか）			3				
	判断理由			貸出券の新規作成事業は、毎年、申込みが多く順調である。本館、分館などで開催するおはなし会は、おはなしボランティアの活動で実施できている。子ども向けの講習会の参加希望者は多い。新規図書を購入することで市民からのリクエストにも対応している。			判断理由			実施数と内容については、毎年、大きな変化はないので実質的なコストは変わらない。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題					平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し				○本館、分館で開催するおはなし会への小学生の参加人数が少ない。 ○中学高校生の登録率、利用が少ない。 ○市民ニーズにこたえるために所蔵する図書を増やし、快適な図書館サービスを提供する。 ○新規事業の実施に伴う、サービスの低下を防ぐためにボランティアの活用を図る。					○小学校と協力しブックトークを行う。 ○中学校に設置した「子ども読書活動推進委員会」の活性化を図る。 ○新規購入した図書を配架するため、現行の閉架書庫（外部）の容量を増やす。				
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し													
	C 抜本的な見直し													
	D 縮小・廃止													
E 現状を維持														

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民会館管理運営事業		部	生涯学習部	課長	辻 みえ子						
			課	市民会館・公民館	担当	笹本 寛						
			係	管理係	電話	内線2277						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			昭島市民会館条例、昭島市民会館条例施行規則						
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			法令による事業実施義務							
中項目	03	文化・芸術			<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）							
個別計画（年度）					<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）							
予算科目コード	款	10	項	04	目	06	細目	002	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>						
	市民、市民会館利用団体（社会教育団体、文化事業協会、社会福祉法人、学校、劇団、会社・事業所等）					市民の文化活動の場であり、芸術鑑賞の機会を提供し、芸術を創造・発信する場としての市民会館の機能を維持するため。						
	実施内容					実績・成果						
	○施設貸出業務 ○施設維持管理（施設消耗品、施設光熱水費、施設修繕、樹木剪定等） ○施設設備等保守委託20項目（舞台等設備管理業務委託、清掃委託、空調設備保守委託等） ○市民会館・公民館大規模改修工事（H24、H25年度事業） ○市民会館大ホール舞台機構改修工事 ○施設用備品（市民交流ロビー椅子、冷水機等）					平成24年9月に大規模改修工事の実設計を完了し、平成25年1月から大ホール大規模改修工事を開始、平成25年9月末に完了予定である。平成24年度の市民会館の利用は9ヶ月間で128日、利用率は60%、鑑賞者数は延べ59,340人である。なお、大ホール舞台機構改修工事は平成25年3月25日に完了しており、舞台設備機器の安全性・信頼性が確保された。						
	コスト	(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>					
	直接事業費	千円	104,385	352,950	329,234	481,674	国庫支出金					
	財源内訳	国庫支出金	千円	2,988	151,815	123,938	279,406	・市民会館・公民館大規模改修事業補助金				
		都支出金	千円		84,000	79,400		・特定防衛施設周辺整備調整交付金				
		地方債	千円					都支出金				
その他特定財源		千円	36,651	51,902	23,342	25,408	・市町村総合交付金					
一般財源	千円	64,746	65,233	102,554	176,860	その他特財						
一般職員人件費	千円	46,480	45,920	32,800	32,800	・行政財産使用料						
人工数	人	5.60	5.60	4.00	4.00	・市民会館使用料						
再任用職員人件費	千円	8,200	8,200	6,560	6,560							
人工数	人	2.00	2.00	1.60	1.60							
総事業費	千円	159,065	407,070	368,594	521,034							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3			
	判断理由			施設の維持管理に要する経費等であるため、当該事業の優先度は1番目程度である。				判断理由				
				大規模改修工事は継続費事業として平成25年9月まで実施予定である。利用者が安心して利用できる施設として、また、震災、災害時における避難場所としても重要な施設であるため、防衛省等の補助金を活用し維持管理に努めている。								
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			3			
判断理由			大ホール舞台機構改修工事により、舞台設備の安全性・信頼性が確保された。大規模改修工事は平成25年度も施工中であり、安全・安心な設備環境を目指し、施設改善に努めている。				判断理由					
			改修工事の事業費等は防衛省の補助事業費を活用し、財政負担の軽減を図り効果的に事業を実施している。施設維持管理・保守委託、施設備品の更新等は限られた経費の中で効率的・計画的に実施している。									
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		B			現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
						○予算経費等削減の中で、施設設備老朽化による補修費用・備品購入費等維持管理経費が増大している。 ○委託経費等は施設管理上安全性に係るもので、コスト改善は難しい。 ○併設されている公民館との相互利用により多様な活動を行うことができるように設計建築された施設であり、他の管理運営方法を検討する場合には多くの課題があるため慎重を要する。			○施設未改修部分の補修・点検、施設備品の更新等を順次行っていく。 ○施設の積極的なPRなどを行い利用率向上に努めるほか、財源確保の方法について検討していく。			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し											
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し											
	C 抜本的な見直し											
D 縮小・廃止												
E 現状を維持												

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	市民会館文化事業協会補助事業		部	生涯学習部	課長	辻 みえ子					
			課	市民会館・公民館	担当	笹本 寛					
			係	管理係	電話	内線2277					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			昭島市文化事業協会補助金交付要綱、文化芸術振興基本法、昭島市民会館条例、昭島市民会館条例施行規則、昭島市文化芸術振興基本条例					
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目	03	文化・芸術									
個別計画（年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）						
予算科目コード	款	10	項	04	目	06	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民					市民を対象に、身近なところで優れた芸術文化に触れ、気軽に鑑賞できるような多様な芸術鑑賞の機会を提供する。					
	実施内容					実績・成果					
	○市民会館条例施行規則第16条の規定に基づき指定された団体である、昭島市民会館文化事業協会に補助金を交付し、市民文化の向上に寄与するため、市民会館大ホール及び公民館小ホール等を利用して、公益的な文化芸術事業を実施する。 ○大ホール自主事業4回、大ホール共催事業1回、薪能公演1回、小ホールジャズライブ2回、合計8回の事業を実施した。					平成24年度の自主事業は、市民会館大ホールの改修工事が平成25年1月から施工されたことにより、9ヶ月間で7回の実施となったが、入場者数は、小ホールも含め延べ7,363人であり、全体的に集客率も高く、効果的に事業が実施され、事業収入も増えたことにより、補助金の一部を市に戻入した。					
	コスト										
			(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	17,400	17,400	16,551	15,400				
	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都支出金	千円								
地方債		千円									
その他特定財源		千円									
一般財源		千円	17,400	17,400	16,551	15,400					
一般職員人件費		千円	8,300	8,200	8,200	8,200					
人工数		人	1.00	1.00	1.00	1.00					
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	25,700	25,600	24,751	23,600					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3
	判断理由 市民へ文化芸術鑑賞の機会を提供する目的の事業であり、当該事業の優先度は3番目程度である。					判断理由 改修工事により、9ヶ月間の限られた期間の中で事業を実施したが、鑑賞者及び文化事業協会理事会等において事業内容も好評を得ており、集客率も上がり効果的に実施できた。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4
	判断理由 開催事業の選定等において、幅広い年齢層へ対応する内容を目標としているため、事業内容は偏らないよう創意工夫し実施している。また、集客率、事業収入も上がり、補助金の一部を市に戻入した。					判断理由 文化事業協会専任職員1名が経理事務、事業の調整等を行い、平成24年度は集客率、事業収入も上がり効果的に実施できた。					
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		A		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○大ホール収容規模、年間事業回数等限られているため、開催事業の選定がむずかしい。 ○専任職員が1名のため、経理事務や事業等において、補佐する職員を必要とする。 ○チケット販売方法を検討する余地がある。			○質の高い芸術文化事業を提供することを目標としているが、事業予算は現状維持で取り組む。					

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	公民館運営審議会事務		部	生涯学習部		課長	辻 みえ子						
			課	市民会館・公民館		担当	鈴木 浩一						
			係	事業係		電話	内線2277						
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>							
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			社会教育法 市公民館運営審議会条例 市特別職報酬条例							
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			法令による事業実施義務							
中項目	01	生涯学習											
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり							
予算科目コード	款	10	項	04	目	07	細目	002	細々目	01			
事務事業概要	目的												
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>							
	市民					調査審議により、利用する市民や団体へ良好な学習環境を醸成する効果や市民ニーズの高い講座等事業の提供を図る効果がある。							
	実施内容					実績・成果							
	○公民館運営に関し必要な事項を審議。 ○公民館各種事業の企画実施について必要な事項を調査審議。 ○公民館の課題について検討 ○定例会月1回開催のほか、東京都公民館連絡協議会研修会への参加					委員定数を12人以内から10人以内と条例改正し実態と合わせた。審議会より答申「地域での繋がりを高めるために公民館でできること」を受託。定例会を毎月1回開催のほか東京都公民館連絡協議会等の研修会に参加した。定例会では随時提案等があり、公民館事業をより市民ニーズの高いものへ導いている。							
	コスト												
	直接事業費		(単位)	千円	23決算	1,396	24当初予算	1,432	24決算	1,368	25当初予算	1,445	備考<特財名称等>
	財源内訳	国庫支出金		千円									
		都支出金		千円									
		地方債		千円									
その他特定財源		千円											
一般財源		千円		1,396	1,432	1,368	1,445						
一般職員人件費		千円		830	820	820	820						
人工数		人		0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円											
人工数		人											
総事業費		千円		2,226	2,252	2,188	2,265						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3		
	判断理由					判断理由							
	同審議会の提案等により公民館事業をより市民ニーズの高い事業環境へ醸成している。					社会教育法に基づき設置され、民意を反映する機関として機能しているため、他機関では難しく、妥当性がある。法的には館長の諮問機関。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3		
判断理由					判断理由								
公民館運営審議会の提案等により、市民ニーズの高い事業環境へ醸成する成果が概ねある。					コストはあまり変わらず、また調査審議や提言等の量的内容も横ばいである。								
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組					
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○委員の多くが任期（2年）で代わり、適切な調査審議までに時間を要している。 ○多岐にわたる提言等をいかに事業へ導入していくかが課題となっている。			○当該事務事業は民意を反映する審議会に係る事務であり、既に最低限度の額であり前年並みを予定している。							

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	公民館管理運営		部	生涯学習部	課長	辻 みえ子					
			課	市民会館・公民館	担当	鈴木 浩一					
			係	事業係	電話	内線2277					
	第5次総合基本計画における位置付け				実施根拠<法令、要綱等>						
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）		社会教育法 昭島市公民館条例						
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）		同施行規則						
中項目	01	生涯学習		法令による事業実施義務							
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画				<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）						
予算科目コード	款	10	項	04	目	07	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民、公民館登録団体					市民に実際生活に即する教育、学術及び文化に関する学習の場を提供することで、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。					
	実施内容					実績・成果					
	○市民の集団活動の拠点、学び、文化創造の場としての施設の提供					公民館で活動する団体が約400あり、市民活動の拠点となっている。施設利用率（利用日）も87%と市民ニーズが高い。					
	○自由に集える拠点の場として新聞、書籍等閲覧の提供					施設利用人員総数：137,842人					
	○印刷機の設定					公民館使用料収入：1,072,510円					
	○複写機（有料）の設定					複写機利用料収入：165,630円					
	○社会教育教材の提供										
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
直接事業費		千円	1,571	1,694	1,533	5,106	その他特財 ・公民館使用料 ・複写機利用料				
財源内訳	国庫支出金	千円									
	都支出金	千円									
	地方債	千円									
	その他特定財源	千円	1,534	1,694	1,125	1,120					
一般財源	千円	37	0	408	3,986						
一般職員人件費	千円	2,490	3,280	3,280	3,280						
人工数	人	0.30	0.40	0.40	0.40						
再任用職員人件費	千円										
人工数	人										
総事業費	千円	4,061	4,974	4,813	8,386						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3
	判断理由				社会教育法第3条に、地方公共団体はあらゆる機会にあらゆる場所を利用して市民が実際生活に即する学習を行うのに必要な施設の設置や運営を行うことの奨励がある。また、平成23年度市民意識調査において市が市民活動のために「活動場所の提供」に力を入れることと思う市民の割合は30.4%で、平成21年度（29.9%）より若干増加している。						
	判断理由				公民館と市民会館の併設館で、合理的に効率の良い事業運営をしているので、現状の方法が妥当である。						
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3
判断理由				施設利用者数や利用率の高さなどから成果は概ねあり達成度も高い							
判断理由				コストはやや減少（△2.4%）したが、利用人員は増加しており効率的に実施できた。							
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		○施設利用率の高さの反面、予約の取りにくい状況にある。 ○広報誌公民館だよりは全戸配布の要望も強い。			○平成25年度は、開館から30年経過したことによる、老朽化した備品の買い替えを行ったため一時的なコストの増加があった。経常経費については、当該事務事業は、消耗品等が既に最低限度の額であり毎年精査はしているが、例年並みの予算計上を行いたい。					



平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	学級・講座等事業		部	生涯学習部	課長	辻 みえ子					
			課	市民会館・公民館	担当	鈴木 浩一					
			係	事業係	電話	内線2277					
	第5次総合基本計画における位置付け					実施根拠<法令、要綱等>					
	政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			社会教育法 教育振興基本計画					
	大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			市公民館条例 同条例施行規則					
中項目	01	生涯学習			法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画				<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	07	細目	004	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input checked="" type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	<対象は誰、何か>					<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	市民					市民の実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の講座等事業を実施し、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。					
	実施内容					実績・成果					
	○市民講座 6事業 31回 ○市民大学5事業36回（総合学習等） ○シニア講座2事業5回					市民講座等32事業を実施。また公民館開館30周年記念事業は周年事業費としては予算計上せず、公民館利用者と共に創意工夫し、既定の予算内で実施した。					
	○地域公民館事業5事業13回 ○交流発表鑑賞のつどい4事業4回 ○自主企画事業3事業15回					高齢者向け事業、保育付講座、障害者学級では、一部都補助金の対象となり、首長部局を通じ申請した。					
	○共催事業2事業2回 ○青年学級（障害者）1事業23回					また、これまで市民大学修了生や各種講座の受講生等が市の審議会委員として活動したり福祉や環境などの地域活動を行っている。					
	コスト		(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考<特財名称等>			
	直接事業費		千円	3,076	3,779	3,075	3,355	都支出金			
	財源内訳	国庫支出金	千円					・障害者施策推進区市町村包括補助金			
都支出金		千円	507	568	476	648	・高齢社会対策区市町村包括補助金				
地方債		千円					・子ども家庭支援区市町村包括補助金				
その他特定財源		千円	170	319	212	174	・子ども家庭支援区市町村包括補助金				
一般職員人件費	千円	31,540	31,160	31,160	31,160	その他特財					
人工数	人	3.80	3.80	3.80	3.80	・公民館使用料					
再任用職員人件費	千円					・各種講習会受講料					
人工数	人										
総事業費	千円	34,616	34,939	34,235	34,515						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）			4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			3		
	判断理由	現代社会は様々な課題や新しい情報が飛び交い、生涯のいつでも学べる教育環境を醸成することが大切で、各種講座等事業を開設する必要がある。これらの学びにより家庭や地域社会の教育力の向上や社会福祉の増進へ導くことになる。優先度は2番目であるが1番目と僅差である。				判断理由	講座等事業の実施は職員が企画運営の多くを担っているが、市民企画事業や協働事業を取り入れ住民参加型の地域と歩む公民館としている。公民館は、社会的課題講座や市民協働事業が多くなる中で、コーディネート能力が求められ、地域の行政や住民を良く知る市職員の存在が不可欠で実施方法は妥当である。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）			4		④効率性（効率的に実施できたか）			4		
	判断理由	年間を通じ社会的課題講座を実施したほか、趣向を変えた周年記念事業を実施し、学習の機会提供や文化の振興を図り達成度は高い。				判断理由	コストは横ばい（0.03%減）であるが、その中で公民館開館30周年記念事業を創意工夫し実施し効率的に実施できた。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）	E		現状における課題			平成26年度予算編成における具体的な取組				
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	○学習の成果が地域でどう役立っているか見えにくい。 ○参加者の一部が固定化している。 ○市立会館等へ出向いた講座も実施しているが、遠方の市民には気軽に参加とまでいえない。 ○市民企画事業や協働事業では、実施までに多くの協議時間を費やす。 ○主催講座等の広報についてさらに検討する必要がある。			○各種講座等事業の市民ニーズや効果・意義を精査した予算編成に努める。						

平成25年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成24年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署					
	市民文化祭事業		部	生涯学習部	課長	辻 みえ子		
			課	市民会館・公民館	担当	鈴木 浩一		
			係	事業係	電話	内線2277		
	第5次総合基本計画における位置付け		実施根拠＜法令、要綱等＞					
政策項目	03	未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）			文化芸術振興基本法 社会教育法 市文化芸術振興条例 市公民館条例 同条例施行規則 市民文化祭開催要項			
大項目	03	「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）			法令による事業実施義務			
中項目	01	生涯学習			<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり			
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画							
予算科目コード	款	10	項	04	目	07 細目 005 細々目 01		
事務事業概要	目的		目的					
	＜対象は誰、何か＞		＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民、市民団体		文化芸術の振興は、心豊かな活力ある社会の形成に重要な意義がある。市民に日頃の文化・芸術活動の成果を発表できる機会を提供し、生きがいづくりや市民の交流を図る。					
	実施内容		実績・成果					
	○10月12日～11月4日（14日間） ○主催：昭島市・昭島市教育委員会 主管：昭島市文化祭運営委員会 ○参加：27部門（79団体） ○演奏・演芸（民謡、合唱、人形劇、朗読、大正琴、うたごえ、歌謡、邦楽、芸能、ソータイム、音楽祭）○展示（美術展、書道展、科学展、華道展、手工芸展、俳句展、平和展、山野草展、盆栽展、短歌展、菊花展、写真展、陶芸展）○対局ほか（将棋、囲碁、茶会）		参加者：延15,057名 出展、出演者等：27部門（79団体）					
	コスト	(単位)	23決算	24当初予算	24決算	25当初予算	備考＜特財名称等＞	
	直接事業費	千円	2,590	2,600	2,593	2,600		
	財源内訳	国庫支出金	千円					
		都支出金	千円					
		地方債	千円					
その他特定財源		千円						
一般財源		千円	2,590	2,600	2,593	2,600		
一般職員人件費	千円	5,810	5,740	5,740	5,740			
人工数	人	0.70	0.70	0.70	0.70			
再任用職員人件費	千円							
人工数	人							
総事業費	千円	8,400	8,340	8,333	8,340			
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による							
	①優先度（どの程度優先されるべきか）		3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）			
	3				3			
	判断理由	文化祭は、市民の日頃の文化・芸術活動の成果の発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として、多くの市民に親しまれ、ニーズもあり、文化活動の振興と地域文化の向上発展など活力ある社会形成に必要である。			判断理由 主催は市及び教育委員会であるが、市民が主体の事業であり、参加団体から選出された委員で構成される文化祭運営委員会へ運営委託している。開催まで会議を重ね、自治会等へのポスターや日程表の配布もPRを兼ね各委員が直接配布している。前日に開催されるオープニングフェスタでは準備から全て委員が企画・運営している。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）		4		④効率性（効率的に実施できたか）			
3				3				
判断理由	参加79団体及び参加者15,057名（1日平均1,076名）があり多くの市民に親しまれている。出展、出演者は日頃の成果を発表でき好評で事業の達成度は高い。			判断理由 コストは前年とほとんど変わらず、事業内容もほぼ同様だが、毎年、楽しみにしている市民も多く参加者は増加しており、効率的に実施できた。				
課題と今後の方向性	今後の方向性（以下より選択）		E		現状における課題			
					平成26年度予算編成における具体的な取組			
	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し				○総合基本計画の参加者数が目標値に近づいているが、文化芸術の振興に寄与できる当事業予算は現状維持として取り組む。			
	B コスト改善に向けて実施方法を見直し							
	C 抜本的な見直し							
D 縮小・廃止								
E 現状を維持								
				○委託事業であるが、実際には事務局としての担当職員の役割や負担も大きい。 ○現在、事務局は公民館であるが、「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」に基づき、文化を推進する体制が整備されれば市民文化祭もより広がりのあるものになると思われる。				